

川崎さんを偲ぶメッセージ集



想うこと 須田春海（環境自治体会議事務局長・市民運動全国センター代表世話人）

あれほど温和な表情が自然に湧き出る人があったであろうか。

彼ほど、他の人が何を思い何に躓いているのか配慮しながら、自分の行動を決めていた人がいたろうか。

あまりにも惜しい。

自らの命の少なさを語るときの淡々たる語り口が耳に残る。

「三ヶ月でも、三年でも、三十年でも、命の長さは人生に大きな影響を持たないよ。それより、あなたは今日も素晴らしい仕事をしたし、素敵な仲間を作ったし、なんといっても心を支えあえる家族がいる、恵まれてるではないか。」

こんな言葉しか吐き出せなかったわたしに、彼は感謝の気持ちさえ伝えたのだ。

あまりに憎い。

神戸の震災の早朝、彼はわたしたちの研究會に出るため大阪を飛び立った。その日一日の座り心地の悪さ。そんな経験を消化しながら、彼は日本でのローカル・アジェンダ研究の第一人者になった。「役人が市民の中に入り善導するのは一番の間違いの素だ」というわたしの冷笑を承知で、市民會議を立ち上げ、無理のないコミュニケーションづくりに成功した。彼はこれからの市民社會が求める逸材だった。なぜ彼の余命を奪ったのか。

ただ、わたしは、再び彼と会えると信じている。そこが何処かは知らないが、精神の交流には尽きることはないのだ。



(2001年12月17日、クリーンランドにて実験堆肥の袋詰め。
高島 邦子さん撮影)

道標を頼りに 朝田くに子（ローカル・ジャンクション 21 準備会事務局）

イギリス視察旅行でご一緒することになり、2001年7月1日にヒースロー空港で待ち合わせをしたのが川崎さんにお会いした最初でした。定刻になっても現れないブリストルに向うバスを二人で不安に思いながら待ったことがこんなに早く偲ぶ思い出になるとは思いもよりませんでした。

この視察に参加した人たちとソーシャル・エコノミー研究会を立ち上げましたが、その中心となって一番動いてくださったのが川崎さんでした。豊富なご経験と知識に加えて、温かいお人柄で安心していろいろお話しできたので、NPOの運営で悩んだときにずいぶん相談させていただきました。そのたびに「がんばってんねえ」と必ず励ましてくださったものです。どれだけ心強かったか。壁にぶつかったら、川崎さんにご相談すればいいと思いながら、前に走っていたような気がします。大きな柱を失ってしまいました。いつまで待ってもバスはもう、こないのですね。でも、いつかはちゃんと一人で歩いていかなければならないのですから、川崎さんが遺してくださった道標を頼りに進んでいきたいと思えます。

「一つでも成果があったら、大きく発表したらいい。それが次に繋がることやから」と、昨年、最後に関西でお会いしたときにアドバイスをいただきました。

川崎さん、本当にありがとうございました。6月にせめてもお電話でお声を聞くことができ、うれしかったです。いろいろなアドバイスの数々、しっかり胸にとめてがんばります。

心から、心から、ご冥福をお祈りいたします。

御恩返しができぬまま・・・ 相川康子（神戸新聞論説委員）

川崎さんと初めてお目にかかったのは、大阪の箕面市で開かれた市民まちづくりワークショップでした。豊中市のローカル・アジェンダの理念や運営方法について、その問題点や限界も含めて解説され、「誠実な方だなあ」と感心しました。その後の交流会で幾つか質問させてもらったのですが、きちんとお答えいただいたのみならず、翌日、「質問があれば、いつでもどうぞ」とメールまでいただき、すっかり恐縮してしまいました。

2年前の夏には、英国南西部のエコロジカル・ツアーに、ご一緒させていただきました。行政の環境施策や市民農園、パーマカルチャーの実践農園、SRBを使った衰退地域の再生プロジェクトやNGOによるリサイクルショップなど、本当に盛りだくさんの視察でしたが、川崎さんはいつも熱心にメモを取られる一方、さりげなくメンバーの体調を気遣われるなど、本当に気持ちの良い旅の「道連れ」でした。

帰国後は、その視察報告を「環境技術研究」に掲載できるようご尽力いただき、分担執筆の下書きにも、ていねいにコメントをつけてくださいました。その後も、旅の仲間で何度か集まりましたが、川崎さんはいつも笑顔で、面倒見が良くて・・・私達は甘えっぱなしでした。

その後も、環境自治体の勉強会に誘っていただいたり、ご自分が書かれた論文の

抜き刷りを送っていただいたり。いつも親切にさせていただきながら、ちゃんとお礼も言えずじまいだったことが、悔やまれます。体調が悪いとはうかがっていましたが、まさかこんなに早く逝ってしまわれるとは・・・。

川崎さんからいただいた好意やご親切の、半分もお返しできないままのご逝去に、いまはただ、呆然とするばかりです。

川崎さんとの思い出 高槻市下水道室業務課 秋山 日東志

明日(24日)と明後日(25日)が酸性雨会議での旅行のため、本日川崎さんに別れを言いに行行って来ました。まるで、今にも話しかけてきそうな穏やかな顔つきでした。いまだに亡くなったことが信じられません。

本人としても新たな目標を立て、それに向かって努力していたのに病魔に襲われ闘病生活を余儀なくされたのは痛恨の極みであったろうと察します。

私が川崎さんと出会ったのは平成4年の秋で、豊中で開かれた環境事例発表会を聞きに行った時でした。それ以後、年に1~2回一杯飲みをする程度の仲でしたが、平成11年からは我々技術士を目指す仲間の講師として度々お世話になりました。

貴重な時間を惜しみもせず、我々のためにわざわざ出かけて来てくれたことを忘れることができません。ご冥福をお祈りいたします。

「存在せり川崎健次」 浅井 正 花と緑のネットワークとよなか

日本と世界は、持続可能な社会を創るための新しい時代を迎えようとしている。豊中市役所という組織の中だけでなく、活動の場を外にも広げていた川崎さん。花と緑のネットワークとよなかの誕生、発展にとっても、川崎さんの存在は大きかった。

川崎さんは、まだまだやりたい事が沢山あったと思います。余りに早く、亡くなられた。しかし、川崎さんに接した人々の中にこれからも存在している。その志を継ぎます。

絵本と私と川崎さんと とよなか市民環境会義アジェンダ21生活部会 今井文子

川崎さんとはもう10年位前になるでしょうか？

「とよなか市民環境会義」の生活部会で、「環境家計簿づくりに知恵かして！」ということで、何もわからないまま新しいメンバーと出会い、何度も何度も集まるたびに自己紹介をして・・・。それが私の市民活動の始まりでした。それまでは生協でだけやっていたことがもっとたくさんの人に伝えていけるということで、希望いっぱいでした。時には行政の壁というか？扱っ絵にも、「エプロン姿のお母さんはダメ」とかのクレームがついたりして・・・。でもおかげで「豊中の市民の手作りのエコライフカレンダー」が続いています。

川崎さんとは年齢も近いこともあって、プライベートな話もよくしましたね。私が桜の花が好きだというと、「何でそんなにいそいで見るねん」という。「早くみないと、もう見れなくなるかもわからへんから、古木から見る」というと「そんなもんかな」と言ってたね。でも「両親を連れて桜見に行きたいからどこがええ？」って電話で聞いてくれたことあったネ。びわ湖北の梅津大崎とか、奈良の又兵衛桜などオススメしたけど・・・行けたかな？

それに私が絵本の読み聞かせのボランティアをしているということ、NHK 出版の雑誌の取材に私を紹介してくださり、「幼児と環境の絵本」というむつかしいテーマだったけど「ちいさいうち」（バージニア・リー・バートン著）など数冊紹介させていただいて載ったこともあったね。「環境と絵本やったら今井さんがぴったりにやる」と言ってくださって・・・。その後も子どもたちの読み聞かせに環境に関する楽しい絵本を取り入れたプログラムをずっと考えています。私のライフワークとなりそうです。

今年の年賀状に「かさじぞうなど読んで欲しいな」と書いてくださり、1月末に私の大好きな赤羽末吉さんの絵のかさじぞうをもって行って一緒にみました。「うん、うん・・・」とうなづきながら静かに聞き入ってくださり、本当に楽しい時間を共有することができ、あの日のことはずっとずっと私の宝物です。

他の方には、組織のことやアジェンダの見直しのことなどいろいろ自分の思いを話されていたようですが、私にはちっとも・・・。絵本のことばかり話していましたね。奥様が買ってくださいました民話のCD のことも。有名な落語家の朗読でしたが、「へたやで・・・。聞いてみ！」と言って貸してくださいましたね。思わず笑ってしまいました。

4月には「すずめのおくりもの」（安房直子著）を読んであげようと病院に行ったけど、別の病院で治療中とかで会えませんでした。その後も無理をおして学習会などにきてくださってありがとう。もう一緒に絵本を見ることはできないけど・・・。がんばります。

今は心からご冥福をお祈りし、「わすれられないおくりもの」（スーザンバーレイ著）をささげたいと思います。

川崎さんのお仕事に深い敬意

滋賀県甲西町役場

今橋克寿

3年ほど前の将来のまちづくりのための構想策定の折に、町内の関係者の皆さんとともに、豊中市を訪問させていただきました。その時に川崎さんに初めてお会いしてお世話になって以来、環境やNPO関係のセミナーなどでも、何度かご一緒させていただきました。

多忙なお仕事をこなされる中で、大学院にも席をおかれていたと伺い、共感を覚えたことでした。これからゆっくりと、ライフワーク周辺をめぐっておつきあいたいだけのものとばかり思っておりました。たいへん残念です。

環境をめぐる市民ネットワークとしては、日本のトップランナーである「豊中市民環境会議」を生み育てられてきた川崎さん。その創造的なご功績は、豊中市にとどまらず、広く日本中に拡がり、より大きく確実なものになって、これからもずっと生き続けることでしょう。

心よりご冥福をお祈りいたします。

川崎健次さんの天逝を悼む

豊中市環境審議会会長 池田 敏雄(関西大学)

川崎さんには、環境審議会でいろいろご教示いただきました。こんなに早く訃報に接するとは...、衷心よりご冥福をお祈りいたします。

川崎さんは向学心が旺盛で、一昨年環境審の後でしたか、大学院で環境政策を研究する旨嬉しそうに挨拶されたことを思い出します。

昨年10月、ご共著『環境自治体づくりの戦略 - 環境マネジメントの理論と実践』(ぎょうせい)を物され、私も一冊頂戴しました。その送り状に「これまで、『自治体の行動こそ環境問題の解決の鍵を握る』という思いで、地方自治体の環境政策論をライフワークとして見聞を広め、意見交換を重ねてまいりました。ようやくここにその果の一端を取りまとめることができた訳ですが...」と書かれています。

もっともっと成果の期待できる方でした。環境審でも、その成果に注目し、施策に反映させたいと考えていました。大変に残念です。

今後とも、どうぞ、豊中市の環境政策を見守って下さい。

合掌

川崎さん ありがとうございます 京都市環境局地球環境政策課 宇高史昭

川崎さんがくも膜下出血で倒られたとの連絡を受け、17日に病院に駆けつけたのもつかの間、本日訃報を受け取りました。まだ、信じられません。

市民参加・協働によるまちづくりを目指す「ローカルアジェンダ21」策定に取り組む自治体職員の勉強会「環境パートナーシップ研究会」を川崎さんの勤めで、大津市の西大さんや笹谷先生と始めたのが二年前でした。つい先日(7月5日)も、研究会を開き、コメンテーターとして川崎さんの元気な姿を見ただけで、今回の訃報は驚くより、大きなショックを受けました。

自治体の職員として、職務をこなしながら、大学院に通われる川崎さんのバイタリティーと勉強熱心さ、さらに自分の勉強だけに止まらず、成果を論文にまとめられたり、本の執筆、雑誌への投稿など自治体職員への熱意の溢れた情報提供には、本当に頭があがりません。まだまだこれから教えていただくことがたくさんありましたが、亡くなられてしまったことは、本当に残念です。

ちょうど、京都でCOP3の開催が決まり、京都市でローカルアジェンダ21を策定することになった折、先進事例が豊中にあることを知り、川崎さんから実践的ないろいろなことを教わりました。そして、「あまり前例がないから、市民から教えてもらいながら、好きなようにやったら良い。京都のお手並みを拝見するから。」といったようなことを仰いました。私はその言葉で肩の荷が下りたのを覚えています。以来、川崎さんの個人的な研究会に呼んでいただき、川崎さんの豊富なネットワークの中で自治体の環境政策について勉強させていただきました。

一人だけではできなくても、仲間を増やす、後継者を育てることで市民とのパートナーシップでまちづくりができるようになることを教えてくださったのも川崎さんです。

微力ながら教えていただいたことを糧に、自治体職員として職務に邁進していきたいと思っております。川崎さん、ありがとうございました。

川崎さん、安らかにお眠りください・・・ NPO政策研究所、七尾街づくりセンター 内山 博史

川崎さん、今まで様々なご指導ありがとうございました。川崎さんには、まだまだいっぱい教えて欲しいことがあったのに、こんなにも早く亡くなるなんて、本当に残念でしかたがありません。

自治体ローカルアジェンダづくりのことで悩んでふさぎこんでいたとき、川崎さんの書かれた論文を読んで、それまでもやもやしていた部分のはっきりし、地域の環境政策をつくるという仕事に再びやる気をもって臨めたのを思い出します。日本にローカルアジェンダというものを根付かせようとしていた川崎さんでした。川崎さんの存在を知ったのは、論文が最初でした。「豊中市におもろそうな自治体職員があるな・・・」それが第一印象でした。

その川崎さんとお出会ったのは、2001年の夏のことでした。ソーシャルエコノミー研究会の面々とイギリスに視察旅行に行った際のことで。「ああ、の方が川崎さんなんだ・・・」と、少し緊張して最初のご挨拶をしたことを覚えています。地域の環境政策について一家言をもつ方からは想像ができないほど気さくなお人柄で、時折、冗談をまじえながら、イギリスの環境への取り組みを見て感心されたり、厳しい評価を試みたり・・・。そう、いつも川崎さんはユーモア、冗談まじりのお話をされる方でした。

チャグフォードという町で泊まったB & Bでは、夜遅くまで寝室の階下にあるアイリッシュ・バーで、黒ビールを一緒に飲んで楽しい時間を過ごしました。あの晩、みんなで歌った「上を向いて歩こう」の思い出は、人生の中で最も楽しかった瞬間のひとつになっています。

川崎さん、僕はこれからも持続可能なコミュニティづくりをライフワークとして取り組んでいこうと思っています。御霊となって、どうか後進の私たちをいつまでもお守りください。本当にありがとうございました。

合 掌

川崎さんを偲ぶ 大野嘉章（練馬区環境保全課）

突然の訃報に言葉がありません。

病とは無縁の川崎さんと勝手に思い込んでおりました。

日常の連絡は特に取り合っていないなくても、あの市には彼/彼女が居る、というランドマークにも似た人たちが全国に点在しています。一自治体の職員にとって、そんな星の一つが消えてしまったことがさびしいです。

97年に都市の音環境デザインについての勉強会をするから講師を務めろ、と呼ばれました。すでに都市デザインの勉強を重ねていた豊中に出向いたのですから私の方もちょっと無謀ではありました。市の範囲を超えて勉強に集まっていた府内の自治体の方々の熱心な眼を今でも思い出します。その求心力が川崎さんでした。

川崎健次さん、あなたと同時代に生き、あなたに出会えてよかった。

**川崎さん、やすらかに眠り下さい。 特定非営利活動法人NPO政策研究所
木原勝彬**

持続可能な社会づくりの推進に、やっと一緒できると楽しみにしておりました矢先のご入院と、続く訃報に、ただただ驚いております。

私の落胆に比べれば、ご家族の失意はいかほどかと、心底からお悔やみ申し上げます。

川崎さんのご指導・ご助言を、私は心待ちにしておりましたが、今となりましては叶わぬ願いとなってしまいました。

持続可能な社会の実現には、実践経験に裏付けられた知見をお持ちの川崎さんのような人材は必要不可欠で、これからのご活躍が大いに期待されておりました。重ね重ね残念でなりません。

私にとりましては、川崎さんの持続可能な社会づくりに賭けられましたご意思や情熱を真摯に受け止め、その実現に邁進していくことが、川崎さんへの何よりのはなむけだと思っております。

川崎さん、安らかに眠り下さい。

川崎健次さんを偲んで 北海道石狩市ごみ対策課 木本明美

私と、川崎さんとの出会いは、2001年2月に開催された「ローカルアジェンダ21日韓ワークショップ IN ソウル」の発表者として、韓国の空港からホテルに向うワゴン車の中で名刺交換をしたのが始まりでした。

当時、私は、環境とは無縁の都市計画課に在籍しており、名だたる都市の環境セクションの方がそろそろ会議に、私のような若輩者が出席しても良いのだろうかと思っていたのですが、やさしい言葉で私の不安をやわらげてくれたのが、川崎さんでした。

また、買い物にも誘ってくださり、向ったお店で、最初にご家族へのお土産と、奥様への皮のジャケットを熱心選ばれるなど、ご家族思いなんだなぁと思っておりました。大きさの確認に、「木本さん、ちょっとこれ着てみせてくれんか。」とおっしゃった声が今でも耳に残っています。

また、発表後に街に出かけたのですが、約30年ぶりの大雪で完全に交通がマヒしてしまい、休憩をとっていたタクシー運転手をつかまえて、やっとの思いでホテルに戻ってきたことも思い出されます。

その年の春に、ごみ対策課に異動し、豊中市の取組を学ぶため、川崎さんを通して視察研修をお願いしました。市民の方やお店の方にも次々と連絡をとってくださるなど、その時の内容は、現在の石狩市の取組にも活かされています。また、前日にホテルまでお越しいただき、長岡京市の真継さんと3人で阪神百貨店の屋上のピヤガーデンで、阪神戦を見ながら話しをしたことが、昨日のこのようです。

また、「環境自治体作りの戦略」をお送りいただいた昨年秋に、私用で、関西方面を旅行することがあり、伊丹空港を利用してでしたので、川崎さんに一目でもお会いして、直接本のお礼をと考えておりました。

しかし、結局連絡が取れず、ホテルから簡単なお手紙と北海道みやげをお送りしたのですが、今となっては、なぜあの時にきちんとお礼をご本人に伝えなかったの

かと、悔やまれてなりません。

ご葬儀には参列できず、大変残念でございますが、北海道から、川崎さんのご冥福をお祈りいたしております。

「川崎さん ありがとう！」 地球とともに歩む会 熊谷まゆみ

四年前に「とよなか市民環境会議」の皆さんが盛岡に来られた時に初めてお会いし、市民と行政が共に力を合わせ、生き生きと活動されていることを知の感動し、さっそく私たちが手弁当で発行している情報誌に連載をお願いしたのでした。

お忙しい中を一年間、四回にわたり書いてくださった文章をまた読み返し、豊中で実践されてきた川崎さんの行動力に改めて感動しました。

三年前、豊中に行き再開した時、川崎さんのあったかさにふれ、「とよなか市民環境会議」の皆さんがなぜ一生懸命になれるのかが、分かったような気が致しました。いつも市民の思いを受けとめ、行政側にいながらも共に行動をし、優しい心で接していた川崎さん。

また盛岡に来ていただき、お話ししていただきたかったです。残念です。でも川崎さんの思いは無駄にしません。この盛岡でも。心からありがとう！！

**川崎さん 有り難うございました とよなか市民環境会議アジェンダ 21
河野猪太夫**

あなたが入院しておられると聞いて、池田市立病院へ見舞った際、一回目より二回目と元気を回復され、さらには4月25日のアジェンダ21の講演会には病院から駆けつけて、急遽飛び入りで講演をして頂きましたが、そこまで病状は快方にあるのだとばかり思っておりました。残念です。

1990年代当初からあなたは豊中市の環境企画課にあって、1995年制定の豊中市環境基本条例の起案に関わり、その具体化に向けての環境基本計画及び豊中アジェンダ21の作成になくってはならない人として寄与されました。

そしてそれらの実施母体としての豊中市民環境会議を設立し、推進の要としてのワーキンググループを設けるなど、豊中市の環境問題推進の体制を確立してくれました。そのワーキンググループが昨年とよなか市民環境会議から独立し、さらに去る6月には特定非営利活動法人として大阪府に認定を申請したばかりです。

つい先日7月16日にも、この私たちの取り組みについて隣の韓国から視察団の訪問を受けましたが、このような光栄とも言える機会に浴するのにも川崎さんの存在があつてのことと、貴方の大きさに敬意を表しているところです。

NPO法人化を目指したとは言っても、その内実は脆弱で不安が大きく、貴方のお力添えを頼りにしての決断であったと言っても過言ではありません。誠に残念です。しかし環境問題、アジェンダ21推進の課題は弱音を吐いていることが許されません、歩み続けなければなりません、三人寄れば文殊の知恵と言います、会員が100数十名に及ぶのですから...頑張りますからね川崎さん、安らかにお休み下さい。

2003年7月23日

「じゃあまた、次回に。」ウメチカの雑踏の中で、しっかり握手をさせていただいたのが7月5日(土)でした。今日はたったその18日後。信じられない思いです。

初めての握手でした。以前から師として一方的に勉強をさせていただいた関係でしたし、いつも多くの人に囲まれておられたので、なかなかゆっくりとお話をさせていただく機会はありませんでした。あの日は、お越しにならないだろう、という予想を裏切り、尼崎まで足を運んでいただいたばかりか、今までご辞退されていた懇親会にもご出席くださいました。お身体のご心配をすると同時に、嬉しく思いました。

本当はとても照れくさかったし、こちらからお願いするには少しの勇気が必要でしたが、私自身何かを感じるところがあり、手を差し出したところ、しっかりと握り返していただきました。あのやさしい眼と、大きくはないけれど厚みを持った右手のぬくもり。

川崎さんの歩まれた足跡は、まさに我々後進にとっての道しるべです。実は今月、直接ご自宅に押しかけて、今考えていること、悩んでいることを聞いていただき頭の整理をしたいと思っていたところでした。

社会において後世に残る業績をあげられ、同時にあそこまで多くのファンを持つ川崎さん。そのお仕事、人格、生き方から、遅まきながらこれからはしっかりと学ばせていただきます。

「あとは任せたよ。しっかりね。」今となったら、やさしい眼と手のぬくもりは私に対するメッセージであったと感じます。ありがとうございました。天国でも、新たなパートナーシップの形成に向けてご活躍されんことを。

2003年7月23日

「環境と市民活動の先駆者」

豊中市水道労働組合・執行委員長 酒井

突然の悲報に驚いています。

あなたは、今の豊中市における環境行政、とりわけ市民との協働に真っ先に取り組まれた方だと思っています。

休日の会議にペットボトルにお茶を入れ、親しく市民との会議で話されていた姿、役所という固い城の中で作業服姿で一緒になって汗を流されていた姿・・・今も目に浮かびます。

「これからの行政は、環境問題抜きには始まらない」そして、常に「自らが主人公として、市民と一緒に・・・」が、あなたのモットーのようにも思います。

こうした姿が、真っ先に取り組まなければならない私ども労働組合への大きな刺激にもなりました。あなたの思いを大切に頑張ろうと思います。この間のご指導に深く感謝申し上げます。

心よりご冥福をお祈りいたします。

大阪の環境自治体運動にとっても痛手だが... 今は安らかに 自治労大阪府職 自治体政策部長 末田一秀

突然の訃報に驚いています。

川崎さんには、自治労府本部の自治研集会で何度も環境分科会の運営委員や助言者として活躍していただき、ご一緒させていただきました。私のような中2階の都道府県職で理屈ばかり言っているのとは違い、まさに市民とともに実践を積み重ねてこられた重みに敬服し、うらやましく思ってきたところです。

あまりに取り組みがすばらしいため、初期の頃は他の市町村から豊中のようにできないとの声も聞きましたが、環境自治体運動が大阪においても各地に広がっていったのも、川崎さんの功績によるところが大きかったと思います。

まだまだ、私たちを引っ張って行ってほしかったとの思いは胸にしまい、安らかにやすみください と言葉にするしかありません。残念です。

川崎さんへ 環境管理システム研究会：監査法人トーマツ福岡事務所：杉元勝

突然の訃報に驚き、言葉もありません。

よく環境会議等でお会いし、いつも情報交換をさせていただきました。

豊中市の ISO14001 は、川崎さんの思い入れによりユニークなものに仕上がっていたのが印象的です。今でもエネルギーに活躍されているお姿がまぶたに浮かびます。我らの活動も知って欲しかったのですが、今はただただご冥福をお祈りするばかりです。

川崎健次君へ 大阪府八尾市 鈴木知身

早すぎるあまりにも。くやしい。残念だ。

福島の大開町、昭和 37～8 年頃の大阪の下町の風景。。

君のオヤジさんはパチンコ屋のマネージャー、せんべい工場勤務だったかオフクロさんはテレビドラマに登場する家庭を守るお母さんだ。パチンコ台の裏側の通路から玉をどんどん継ぎ足してくれたよな。

キャッチボールをしたとき、君は体に似合わず重くて速い球を僕のミットに投げたネ。太くて濃いまゆ毛を上下にゆすりながら。あの頃から君は阪神ファン、僕もそれに習った。

今年はまだすぐ優勝するというのに。

野崎の観音様の境内を夜中に 2 人でふらついたり、僕の牛乳配達のアルバイト先の軽トラックを借りてぶついたり、寺めぐり(京都の)をしたり、若さにまかせてよく 2 人でハッスルしたもんだ。

世の中に対する「なぜ」を自分の胸中に強く秘め、模索し生産的か非生産的かという価値判断をよくしていたネ。

君の冷静に探求する姿勢は御子息達に遺伝子とともに確実に受け継がれていることでしょう。

ただ両親より先に逝くのは、やはり親不孝としか言えないよ。

君のあくなき探求心、私もチョビッとだけもらってこれから生き抜く糧にする覚

悟です。

本当にアリガトウ。

知身より

川崎さんありがとう、そしてさようなら とよなか市民環境会議アジェンダ21 新開悦子

川崎さん、私は今あなたについて何から書けばよいのか迷いに迷っています。やはりあなたが生み、育てた先進事例と位置づけられる「とよなか市民環境会議」のことでしょうね。その活動に参加できた一員として、心から感謝しております。いろいろとありがとうございました。

川崎さんが意識不明の状態になられたとお聞きしたのは、韓国京畿道から来日された金泰韓団長ひきいる行政視察の方々に豊中市の環境政策と私たちの活動を紹介する場の直前でした。そしてメンバーの一人、Kim, Ki-Wonさんから「豊中の活動を川崎さんから紹介いただきました。今後市民との交流を願っています。」とのご挨拶があり、おもわず涙がでてしまいました。豊中のみならず、全国、そして外国までも視野に入れていた川崎さんを、そこに見ました。

病院に伺っても、病室から持って出てくるのは、ノート、ペン、そして紅茶など。パートナーシップの方向性、ローカルアジェンダの考え方、市民活動のあり方、問題点など随分広範囲にわたって熱っぽく語り、いきいきされている様子は本当に病気？と疑うほどでした。つい私もお見舞いと言うより議論の場と思うぐらいしゃべりすぎ、後で疲れさせてしまったのではと、何度も反省したものでした。でも、お嬢さんの成人式の写真をみせてくれる、笑顔満面の川崎さんはお父さんそのものでしたね。

それにしても早すぎるお別れです。これからもずっとずっと理論的なサポートを期待していましたから。7月5日のパートナーシップの研究会でもコメンテーターとして元気な姿を見せていましたし、倒れる前日も散歩に出かけていたと息子さんからお聞きしました。早く治して大好きな研究を続け講義などする予定だったのですね。

お別れは辛く悔しいです。残念でたまりません。川崎さんに教わった事をこれからの活動に活かせるよう、考え行動して行きたいです。

さようなら

紙芝居「にんじん君 大变身」 アジェンダ21 花と緑のネットワーク代表 高島 邦子（改 生ごみ堆肥化実験プロジェクト）

川崎さんが入院された！と聞いて、生ごみ堆肥でお世話になっている農家の畑で収穫した「さつまいも」と、できたあがったばかりの手作り紙芝居「にんじんくん大变身」を車に積んで夢中で病院へ向かったのを思い出しています。

始めて川崎さんと出会ったのは豊中アジェンダ21が出来たころ。

働く市民を捕まえる = 働く市民は市の財産なんだよ

市民をそのような発想で捕らえる行政マンがいること自体が驚きでした。今でこそ、地方自治や市民参加が問われる時代ですが、私にとって、市役所は自分にとって関わりのあるサービスを提供する所という建物のイメージだけでした。「決まったことを決まるとおりにする所」という距離のある関係でした。

「制度や仕組みも市民の声を取り入れるだけでなく、一緒に作っていく、作っていけるそういう時代だよ」

私が日常の生活していることと、環境問題や市政の動きや方向も無関係でなく、共有することができるようになったのは、川崎さんの地方自治に対する思いや熱意に私自身に響くものがあったのでしょう。川崎さん持論の“パートナーシップは互いの立場の違いを認めて取り組むこと”は頭でわかっているけど、実際はなかなかむづかしいものです。壁に当たりそうになったとき「高島さん、さすがやな～」という川崎さんお得意のおだての言葉を、思い出して・・・

これからも進んでいけたらなと思っています。夜の愛犬の散歩を「妻との会話の時間」とメールにかかれてた愛妻家の川崎さんへ 合掌

自治体職員の良き先輩の訃報に接し 世田谷区 高田 聡

突然の訃報に接し、とても残念です。

川崎さんとお会いしたのは、横浜市で開かれたワークショップが始めてでした。私が慣れない事例発表をさせていただいたときに、親切にアドバイスしてくださったことが忘れられません。またお会いして、自治体職員の先輩としてのご意見をいただきたいと思っておりましたが、残念です。川崎さんの残してきた成果が、多くの自治体でいかされていくことを願っています。

ありがとうございました ダイナックス都市環境研究所 佐藤 健明

私が川崎さんに初めてお会いしたのが、私が社会人3年目の年、2000年に開催された、水俣での環境自治体会議です。「環境自治体会議に出席したら、川崎さんに必ずお会いしてこい」と、上司に言われておりましたので、夜の交流会で私から話しかけたのがきっかけです。

当時すでに環境行政を推進するリーダーとして全国的に有名だった川崎さんですが、私が話しかけると、大変気さくに、明るく話をしてくださいました。通常、著名な方と面と向かって話をするのはなかなか難しいのですが、川崎さんは丁寧にお話くださったので、それが第一印象として今でも残っています。また、よく話を伺ってみると、私と同じ大学の研究室出身でおられ、一層、親近感が増したことを覚えております。

その後、パートナーシップによる環境行政事例を調査する際にヒアリングにご協力いただいたり、私が所属する団体で主催したフォーラムにも講師としてお越しい

川崎さんと最後に会ったのは、彼がくも膜下出血で倒れた15日のちょうど10日前、7月5日に尼崎で開催された第5回「環境パートナーシップ研究会」でした。当日は川崎さんと私がパネルディスカッションのコメンテーターをつとめました。コメントの冒頭いきなり「今日の報告中ローカルアジェンダの言葉が1つも出なかった」と苦言を呈されたことが強く印象に残っています。今となると、そこには日本の自治体へのローカルアジェンダと環境パートナーシップの導入・普及に人生を賭けてこられた彼の最後の訴えが込められていたのかと感じられてなりません。

研究会終了後の懇親会には、昨年闘病生活に入って以来、ずっと欠席されていましたが、5日の懇親会には久々に参加され、私とも個人的な話で30分近く盛り上がりました。そして懇親会の帰り、夜9時前の阪急宝塚線・豊中駅で別れたのが永遠の別れになるとは！

研究会から1週間経った7月12日付で、川崎さんから1通のメールが届きました。内容は「環境パートナーシップの事例を調べたいので、うまくいっている事例、失敗した事例を教えて欲しい」というものでした。とりあえず私の把握している市区町村レベルのパートナーシップ組織をまとめて、翌13日に連絡したところ、折り返し「これだけあると、いくつかの切り口でパートナーシップ組織をパターン分けして、そこから代表選手を選ぶということでしょうか、大変ですね」という返事が来ました。倒れる僅か2日前です。

彼が豊中で市民や事業者の方々とつくりあげた環境パートナーシップ組織という新しい市民と行政との協働のかたちは、いま全国の自治体に波及しています。そして国をも動かし、環境省は今年度から「環境パートナーシップ事業への支援策」をスタートさせました。こうした動きを見つめながら、改めて全国の環境パートナーシップ組織調査に乗り出そうという意欲に燃えていたなかでの死は、残念でなりません。

川崎さんへ 環境自治体会議事務局 / 『月刊自治研』編集 竹下 涼子

「もしもし～お久しぶりです～。いま東京だけど、これから30分だけ時間があるから行きますわ」と、忙しかった川崎さんの急な来訪を今でも思い出します。「下の酒屋で買うてきたよ～」と、手土産のビールを片手に笑っている顔と、額の汗。

あれから早7年。環境自治体会議を通じてのお付き合いで、川崎さんとは何度となくお会いし、またお話をさせていただいたのに、私には川崎さんから、ご自身の実績や苦労話などを伺った記憶がまったくありません。環境行政への市民参画で全国のトップランナーだった豊中市、そしてその現場の最前線にいらした川崎さんに、聞いておきたいことは数多くあったのににもかかわらず、ご本人を前にすると、どうしても難しい話より楽しい話、笑い話をしたくなってしまう。気配りが上手で、いつも朗らかな川崎さんは、環境行政のプロであると同時に、誰からも好かれる、とてもチャーミングなおじさんでした。

今年4月、川崎さんの書き上げた論文を編集するという仕事をさせていただきました。川崎さんのこれまでされてきた仕事と、その底を流れる問題意識に初めてダイレクトに触れた気がしました。何度もやり取りを重ね、活字になった論文は、まだまだ川崎さんの集大成と呼べるものではなかったようですが、「博論のベース

にしたいから、これからいろんな人にコメントをもらおう」と、とても喜んでくださいました。療養中と言えど意欲的で、まさかこんな日がたった数ヶ月後に来るとは思いもかけなかったのに・・・。

川崎さんの意志を次ぐ人は、川崎さんの人脈の豊かさからも分かる通り、全国に数多存在しています。未完の論文も、豊中市の実践が、仲間の研究者たちが、少しずつ完成に向けて筆を進めていくことなのでしょう。安心して見守っててくださいね。でも、川崎さんの代わりはどこを探しても見つからない。いまはただ悲しくてたまりません。

**川崎健次さんという方
(株)地域未来研究所**

田淵誠一 おおつ環境フォーラム会員・

川崎さんの名前はずっと前から耳にしていました。10年ほど前、豊中市でまちづくりと連動した画期的な環境配慮指針がつくられて、そのしかけは川崎さんという人がやっているらしいという噂を伝え聞いた辺りからでしょうか。その名前が私のなかでより鮮明になったのは、川崎さんの論文に出会ったときです。全国の環境基本条例と環境基本計画を丹念に分析され、その構成の問題と今後の環境政策への展開について精緻な論が展開されていました。限られた情報から、川崎さんという方は論理先行の切れ味鋭い行政マンというイメージを勝手に作りあげておりました。しかし、その後、豊中ではアジェンダ策定のためにえらくめんどくさい市民の会議を川崎さんが中心になってやってるらしいという話を聞くに及んで、これはちょっと印象が違うかなあと思い始めました。やがてご本人が目の前に登場します。「おおつ環境フォーラム」がまだ準備会だった2年前の春、大津まで来られ豊中の市民環境会議についてお話しをいただきました。「まあ理屈は色々ありますけど、活動は楽しまんとあきません」とにこにこしながらお話をされるのを聞いて、私の中で、川崎さんは理論の人から「人たらし」の人へと変わりました。

川崎さんという方は、人・まちを動かすには、明確な政策の目標と理論を持ちかつ実践力があること、そのために何よりもその人自身に熱い情熱と人をひきつける魅力とが無いといけないということを自ら体現した方だと思います。直接的にはわずか2年あまりのおつきあいでしたが、このことが私のなかに強く印象づけられています。川崎さんの世界には誠に遠く及びませんが、その言葉と姿を思い起こしつつ、私も考え行動していきたいと思えます。

あまりに早い死を悼むとともに、ご冥福を心からお祈り申し上げます。

**川崎さん、ありがとうございました
エディター**

角田 季美枝 / フリーランス・

川崎さんはおおらかな人でした。今を去る8年ほど前に地方自治の仕組みも何も知らない私が書いたイギリスのローカルアジェンダ実施自治体の取材記事を、ご自身のエッセーや論文等で引用いただきました。ベテランの環境担当の実務者からす

れば、きつととんちんかな内容であったにちがいないと思いますが、非常にうれしかったです。いまでもそれは励みになっています。

その後も実績もあり、年齢も自分のほうが上、しかも男性ということをはげらかさず、目線を等しく接していただきました。自分と意見が異なっているからといって、決して他人を否定されませんでした。おそらくそれは私だけではなく、他の方に対しても同様なスタンスだったことでしょう。おおらかというより、ひょっとすると誰からも学んでやろうという、ある意味で強欲な方だったのかもしれない。

川崎さんが尽力されたのは、市民自治かつ持続可能な地域社会を実現するためのマネジメントのあり方です。とよなか環境市民会議と豊中市の間に生まれた「豊中アジェンダ」は、まちがいなく世界に誇ることができる日本発（初）のローカルアジェンダだと確信しています。

まだまだご活躍いただきたかった！ お話を伺いたかった！ 川崎さんのビジョンへの道筋はどれくらいクリアでシャープになっていたのでしょうか。私も私なりに市民自治かつ持続可能な地域社会の実現へのマネジメントを追究してみたいと思います。川崎さんの実践や理論、そしてお人柄は今後も私の道標であることでしょう。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

ひとつの転機に **（財）生活環境問題研究所 富田重行**

私がとよなか市民環境会議に携わったのは、ある意味ではまったくの偶然であった。

水俣病における国の役割をみても自明であるように、市民サイドで環境問題を見たとき、多くの行政は公害の発生源である企業を擁護したり、問題を薄めるはたらきをしてきた。発言をする市民と行政とは対立の構造のまま進んできた。いまなお共通の土俵に立つこともできない問題も多くある。

まったくの偶然で豊中アジェンダ2-1の策定市民運動を進める仕事を受注したとき、市民を便利にする手段としての官製市民運動にはしないことを自分自身に課した。水俣病に呻吟する患者さん達の苦悩や悲しみに共鳴することのない運動など一顧の価値もない。

しかし、延々と続くワーキンググループ会議のなかで集まって来た市民達との遠慮会釈のない意見のやりとりが行われているのを見て、行政に厳しい批判の目を向けるこうした人たちと一緒に計画づくりができるのはすごいと思った。なにか一つの可能性を見いだせた気がした。

川崎さんが軸になって、市民と行政の新しい係わり方を作ろうとしていた。私は豊中の市民を見ていて、市民の参画のもとでの地域運営（かつての自治村__惣村のような）は可能かも知れないと思った。逆にこれだけの質を持った豊中の市民達でできなかつたら全国どこでもできないだろうと考えていた。

豊中アジェンダ21の策定のプロセスは市民の自己確認の場でもあったし、行政マンである川崎さんの自己確認の場でもあったろう。

同時に、環境問題をテーマとして生きてきた私の自分自身への自己確認の場でもあった。

川崎さん、いろいろな出会いをありがとう。

長尾 加代 <旧姓 丸田 マル>

高校時代の友人です。

川崎君 とても悔しいです。残念です。

訃報をいただき、昨年実家で卒業文集を見つけた事を思い出しました。

ホームルーム委員をした時、私達は受験生でしたが、文集を作りましたね。

貴方の将来について・・・を読み返しました。

＝この大きな社会の片隅に、僕という人間が居たと、誰かから言われる様な事をしたい。そして僕が社会から受けた事を、自分の出来る限り精一ぱい、社会に対して返したい。＝ (原文)

青春時代と変わらない情熱と志で歩いて来られた・・・と思います。

残念です。悔しいです。

もう一度 ネコ<学生時代のニックネームです>と会って、懐かしい時代と今の自分達を語りたかったですね。

もっと生きてかった貴方の気持ちや志をご家族や友人達が受け継いで行くと思いますよ。

病気の事、気には掛かりながらお見舞に行けずゴメン。

阪神ファンの川崎君の病は阪神タイガースの快進撃のように快癒して と祈っていましたが 貴方の遣り残した事や悔しい気持ち、又ご家族のお気持ちを思うと、言葉が見つかりません。

安らかに眠って下さい。

お疲れ様でした。

心からご冥福をお祈り致します。

奥様 ご両親 お子様方 看病お疲れ様でした。

持続可能な地域づくりに生涯をかける川崎さんを偲んで
(環境省 現在経済産業省勤務)

中島恵理

川崎さんの急逝のお知らせをいただき、深く悼み申し上げます。この1,2日、川崎さんとの思い出を思い返しております。

初めて川崎さんと出会ったのは、今から約6年ほどまえ、環境省で環境基本計画関係の業務を担当していたときに、とても先進的な豊中市のローカルアジェンダを形作られた方とお聞きして、お会いしました。それが縁で、環境省における環境指標の検討会に係わっていただき、とても積極的に関わっていただきました。その後、私がイギリスに留学した際に開催したエコツアーに参加いただきました。川崎さんは、エコツアー終了後、ツアーでの経験を日本の地域づくりに生かしていくため、連載記事の掲載を行うべく環境技術の雑誌社ととりあっていただき、その後、参加者による研究・実践を進めるため財団申請も行っていました。川崎さんの強いリーダーシップにより、エコツアーで知り合った仲間はツアー後も持続可能な地域づくりにむけたコミュニケーションをとることができたのです。これも、持続可能な地域づくりに非常に精力的に取り組まれてきた川崎さんの熱意ゆえだったのだと思い返しております。

このような川崎さんが逝かれてしまうことは、豊中市だけでなく我が国において環境保全型社会を構築していくうえでとても残念に思いますが、一方で川崎さんの活動、熱い思いは、引き継いでいきたいと思っております。

いつも明るく、優しくそして、エネルギッシュな川崎さんに、多忙な仕事に埋もれそうな私もいつも励まされてきました。そのお返しになるかわかりませんが、私としては、川崎さんが精力的に活動・展開されてきたローカルアジェンダ、持続可能な地域づくりの火を消さぬよう、取り組んでいきたいと考えております。

残されたご家族の皆様の健康とご多幸を心よりお祈りしております。

長靴と帽子にスコップの川崎さんを思い出す 元豊中市水道労働組合執行委員長 中村 義世

いつ頃から忘れたが、病院に彼を見舞ったとき、医者から「余命の宣告」をされたと平然と語った姿を、訃報を聞いて今思い出す。内心を思いやる心にかけていた小生は、返す言葉もなくただ黙って聞いていた。その後、何度か「豊中アジェンダ21」の活動状況や、検討中であった特定非営利活動法人化に向けた相談に病院を訪れたが、これほど早く、亡くなるとは想像もできなかった。とりわけ10月から、ある大学の非常勤講師として「自治と参加」の講義を受けもたれることから、小生も一学徒として聴講することを約束し、回復を期待していた矢先の訃報であり、愕然としているのが現在の心境である。

ところで、彼との付き合いは古い。言いも悪いも彼に振り回されたようでもあり、私も利用させてもらったほうである。自治労の環境政策プロジェクトに参加してもらえるか打診したころから、本格的なつきあいとなった。労働組合の役員という立場で随分使われもしたが、小生にとっては、今の自分の位置を確かにさせてくれた友人といって差し支えないだろう。

環境行政に関し、豊中市は全国的に評価が高いと聞く。市民、事業者、行政のパートナーシップ組織である「とよなか市民環境会議」の設立も含め、彼の功績であることを明言しておきたい。当時は職員にも戸惑いもあり、必ずしも庁内的には歓迎される雰囲気ではなかったが、その先見性と着眼性に改めて評価をしたいと思う。

先達はいつの時代も疎まれる場合が多い。彼にもそんな話をしたことがあるが、近年を考えるとその落差に驚く。

丁度3年前、小生は農水省の助成を受けて生ごみの堆肥化を通じた地域循環を描く事業に参画させていただいた。この活動では実験において嫌気性発酵に悩まされ、多くの人と苦労したものである。いつも長靴に帽子をかぶってスコップをもった彼の姿があった。現場が好きな人でもあった。また、豊中市の給食センターから排出される生ごみの堆肥化の有効性を検討する会議に加わらせていただいた。そのとき彼の知識の豊富さに舌を巻いたが、技術者として技術に溺れず、自学自習の成果(実際の経験と知見)を大切にする姿に感銘を受けたものである。

彼がもっとも心配していた「豊中アジェンダ21」の特定非営利活動法人化に向けた設立総会が6月27日に開催され、設立申請が決議された。幸い、彼が奔走した堆肥化事業も本格稼働が具体化し、法人化も射程に入った。これが病の中を駆けつけパートナーシップについて厚い思いを語っていただいた最後のメッセージに対する、恩返しになるとは、世の無常と皮肉さに腹立ちを禁じえない。

ところで、お世話になっていた先生に相談のため、京都によく彼と出かけ、あるいは何度か酒を共にした。小生は、行政にいつまでもいないで「次の人生を考えては」と、よく言った記憶がある。それだけ彼に期待していたのであるが、それも不可能になった。まったくもって惜しい人物を失った。もう相談する相手のいない寂しさは辛いものである。

無念の一語だ。

合掌

「池田」が誇る偉人の逝くを惜しむ 池田市環境にやさしい課 長森育代

「川崎さん」、本当はそんなに簡単に呼べるような方ではないのですが、今もそう呼ばせてください。

初めての出会いは今から4年前、私が池田市の環境にやさしい課長に、環境とは全く無縁の部署からなって、右も左も、分からず、とにかく先進である豊中市で聞いてきたらといわれて(豊中市が進んでいる、それすらもそのとき初めて知ったのです!)伺ったときです。「市民参加」「市民との協働作業」について、すごく情熱的で熱心に語っていただいたのが昨日のようです。

しかし、川崎さんのすごさがやっと未熟な私にも分かり始めたのは、つい最近のことで、これから教えてもらわなくては、と思っていた矢先の訃報です。

環境パートナーシップ研究会にお誘いいただき、何回か講演を聞かせていただきました。白熱した議論の中心におられるのは至極当然のことでしたが、今年の2月に「入院中なんですけど…」と出てこられていたのを拝見したのが最後になるとは思ってもみませんでした。

素晴らしく「前」を走っておられることを相手に意識させない、ちょっと下がり気味の眉がやさしい人柄を現して、一層素敵なお方でした。池田市民であることがとっても誇らしかったのに…。

天国に逝かれたら、地上みたいに、天国の環境が悪くならないように、みんなを集めて講義してあげてくださいね。みんながパートナーとして素晴らしい楽園を維持できるよう、よろしく指導お願いします。そのときは、身体をこわさないくらいにほどほどにお酒を楽しんでください。

では、またお会いできるその日まで。

愛媛県松山市

西山敬三

川崎健次さんの突然の訃報に大変驚いています。

東京で最後に会ってから18年経っていますが、「水」の汚染に強い関心を持っておられ、武蔵野の用水路をいっしょに観察して歩いたときのことが思い出されます。その当時から、今日まで環境問題について深く研究されていたことをインターネットを通じて承知しておりましたが、まだまだ活躍できる年齢であっただけに本当に残念です。心からご冥福をお祈り申し上げます。

友の急逝を悼む

日本共産党岡山県建部町議会議員

議会運営委員会委員長

二宮 衛

愛媛大学で共に学園の民主化と学問の自由を求めて闘い、そして、国民が主人公の政治実現に闘う仲間として、川崎健次さんの急逝のメッセージを記そうとは、私の夢だに思い及ばなかったことです。川崎さんの急逝の知らせはどんなにかご両親やご家族、友人たちを驚かせたことでしょう。

川崎さんは責任感旺盛で、それに誠に純真温厚な人柄はあなたを知る誰しものが認めるところであり、君の急逝を惜しみ嘆かぬ者はありません。君の思い出は終生皆の胸に残ることでしょう。よしなき別れを惜しむ言葉は語りつくせません。どうぞ安らかにお眠りください。

川崎健次君の突然の訃報に接して

愛媛大学農学部卒

橋本博明

特に音信もとっていなかったところ・・・、川崎のことだからいつものように元気で活躍していると思っていたのに・・・、突然の知らせに驚いたのもつかの間、逝ってしまうなんて・・・無念です。

松山の持田町の同じ大家さん(大西さん)の下宿にお世話になって、毎日のように顔をあわせていたのが、昨日のように思い出されます。いろいろ若い議論を交わしていたのが懐かしいです。あのときの君の言葉に、ずいぶん成長させられたと思っています。弁証法の基本命題から、社会の発展とその中で、個人の生き方をどう位

置づけるかなど・・・、思い起こせば、それらの議論がどれだけ人生の原動力になったか計り知れません。会えていたなら、きっと議論の続きをしていたと思います。

川崎、本当にありがとう。君との親交を、糧としてまた進んでいくつもりでいます。

このたびの報に接し、私から以下の方たちと連絡を取り合いました。敬称略します。

徳富、金子、北角、小島、米田、下川

徳富さんを通じて・・・二宮、石本、大野

川崎さんの蒔かれた種は着実に育っています 近畿大学理工学部社会環境工学科助教授 久 隆浩

川崎健次さんの訃報に接し、何と言ったらいいか言葉に詰まっています。体調がすぐれないとお聞きしていましたが、こんなに早く逝かれてしまうなんて考えてもみませんでした。

川崎さんとは「とよなか市民環境会議」や豊中市環境審議会の席で一緒させていただきましたが、いつもエネルギーに仕事をしておられたお姿を、今一度思い起こしているところです。

いい方は早く亡くなるとよく言われますがほんとうにそうなのか、と川崎さんの訃報をお聞きして思いました。しかし、川崎さんが豊中市、そして豊中市民、さらには日本に蒔いた環境保全の種は着実に地に根を下ろし育っていると思います。川崎さんはもうここにはおられなくなりましたが、川崎さんが蒔いた種は残された私たちが責任を持って育て大輪の花を咲かせなければならないと思っています。

川崎さん、ずっと遠くから眺めていてください。そして、天上から私たちを勇気づけてください。あなたの遺志は私たちがきちんと受け継いでいきます。ですから、安心して安らかにお休みください。どうもお疲れ様でした。

温かい魂の宿る言葉を忘れません 弘本由香里（大阪がスルサ文化研究所）

豊中市民のみなさんといっしょに、ローカルアジェンダ21の策定に関わるご縁をつくってくださったのが、川崎さんでした。以来、成長の乏しい私を、いつも辛抱強く温かい目で見守り励ましてくださいました。

昨年8月8日、長崎の原爆の日前夜のことでした。川崎さんを交えローカルアジェンダ21に縁ある者が4人寄って、夏の夜のひと時、語り合う機会に恵まれました。

原爆のこと、戦争のこと、これからの生き方、ローカルアジェンダの将来像などなど、お互いの話に耳を傾けました。仕事では、何度も何度もごいっしょしていたのですが、仕事を超えたところで、それぞれの生きざまや思いをゆっくり語り合う時間を持ったのは、それが最初で最後となってしまいました。次の機会を楽しみにしているうちに、病を得てしまわれ・・・。今思い返せば、あのひと時の会話は、川崎さんからの一期一会のメッセージであったように思えてなりません。

とりわけ、私の父の広島での被爆体験に深い共感を寄せてくださったことが印象に残っています。川崎さんの環境への取り組みの根本のところに、命の尊厳や自由への深い深い眼差しがあることを、私はその日改めて心に刻みました。

その思想は、その後別の機会にメール上で発信された、次のような川崎さんの言葉からも、ひしひしと伝わってくるようです。「みんなが、勝手に(ただし好きな者同士だけの集まりではだめ、きれいな人や分野の異なった人を集めることが重要)21世紀の課題を述べあうような、ローカルアジェンダが重要だと思います。」

川崎さんの言葉を、繰り返し思い起こしながら、歩いていきたいと思います。ほんとうに、ありがとうございました。安らかに。

川崎健次さんのご冥福をお祈りいたします 国土交通省北海道局開発専門官 藤倉まなみ

川崎さんとは、私が神奈川県鎌倉市役所に勤務している時に、新潟の環境自治体会議で初めてお目にかかりました。以来、環境自治体会議で3度くらいご一緒させていただき、毎回昼間の会議以上に夜のビールで、市民参加のあり方から市役所や議員さんの裏話に至るまで、いろいろなお話をさせていただきました。また、豊中市にお招きいただき、鎌倉のまちづくりについて意見交換させていただいたこともあります。2000年からは大阪に勤務しておりましたが、なかなかお目にかかる機会もないまま現職に異動してしまい、ご連絡をしなればと思っていた矢先の突然のご訃報に我が目を疑いました。

私も、自分の娘が他界するという経験をしました。ご遺族の方々のお悲しみはいかばかりかとお察しいたします。どうぞご自愛くださいませ。

重ねて、ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、故人のご功績を偲び、心からご冥福をお祈りいたします。

川崎さんご苦労様でした。 本多俊之(元(社)大阪自然環境保全協会事務局 局長)

川崎さんと一緒に仕事をさせていただいたのは、リオサミットよりもはるか前の1987年ごろのこと。当時私は、大阪自然環境保全協会の事務局の仕事をしておりましたが、そのとき、豊中市の「身近な自然環境調査」を受託したのが最初だったと思います。これは市民参加調査のはしりのようなものでした。その後この調査から発展して1990年に「豊中自然環境ガイド」作成を受託しました。このガイドブックは練馬区の自然ガイドなど当時東京方面でブームになっていたものを関西ではじめて作ろうとめざしたものでした。また、その後1993年には「身近な環境調べ」運営のお仕事もさせていただきました。これは、昨今「環境教育」として取り組まれているプログラムの最初のひとつでした。

これらの仕事は、川崎さんが豊中市を環境先進都市にとの意気込みで取り組んでいた仕事のひとつで、いずれもほとんど暗中模索で取り組まれたものでした。これらの仕事やのちの豊中市環境アジェンダなどが、いずれも現在の環境行政のさきがけとなっていることを見ると、川崎さんがいかに先進的な行政マンだったかがわかります。そして、その情熱のありようは地球サミット以前いわゆる公害の時代から

活動している「環境行政マン」のひとつの典型とっていいのではないかと思います。

川崎さんほんとうにご苦労様でした。

川崎さんの姿勢から学んだこと 環境自治体会議事務局 / 環境政策研究所 増原直樹

初めて川崎さんにお会いしたのは、私が阪大工学部に通っていた時でした。当時豊中に住んでいたこともあり、2年ほど市の環境基本条例・計画・アジェンダづくりに関わらせていただきました。その間、また私が大学卒業後、環境自治体会議でスタッフをしている間にも、様々なことを教えていただきました。

日頃は温厚な川崎さんでしたが、一回だけかなりの剣幕で私の失言を指摘されたことを覚えていらっしゃいますか。とよなかアジェンダの検討会議のあと、いつもの豊中駅前の飲み屋でおごってもらっている時でしたか。「総合計画の下位にある環境計画が・・・」といった私に、「下位とは何事か！」と言われましたね。当時はさておき、研究者の端くれとなった私に、言葉の大切さを改めて気付かせて下さいました。川崎さんはお忘れかもしれませんが、今でも私にとって、世間で何気なく使われている言説を濫用してはならないという教訓になっています。

もう一つ忘れられないのは、都市化された豊中市の一部とは信じられないほど里山的な風景が残り、初夏になるとホテルが乱舞するところへ連れて行って下さったことです。「自然を守ろう」と言うのはたやすいですが、自然を楽しみ、生態系と人間とが共存できる環境に想いをはせることの大切さを無言のうちに示して下さいました。

それにしても、倒れる直前まで博士論文の構想をまとめられたり、9月から始める予定だった大学での講義を準備されたりしていた川崎さんの学問に対する向上心、探究心には本当に驚かされるばかりです。私もその姿勢に学び、少しでも近づけるよう日々努力していきます。

思い返せば、豊中市での集まりの帰りや、川崎さんの子どもさんたちの家庭教師をさせていただいた時など、いつも食事やお酒をごちそうになってしまっただけでした。私はできる悪い研究者ゆえ、川崎さんの多大な業績の足元にも及ばず、様々な形でのご恩を研究成果の形でお返しするには多くの時間が必要になると思いますが、ずっとあの温かい笑顔で見守って下さると嬉しいです。心からご冥福をお祈りします。

川崎さんにはいつも助けていただきました 高崎経済大学 水口剛

川崎さんとは、環境自治体会議の縁で知り合いました。もう、何年前でしょうか。東京の半蔵門にある市民運動全国センターで、当時川崎市にいた田中さんや角田さんらと共に自治体の環境政策のようなことを議論したのが最初だったと思います。お会いするのはいつもそういう時でしたから、私は川崎さんの一面しか知らないわけですが、いつも穏やかで、いろいろなことを深く考えておられる方でした。

3,4年前のこと、水俣市で環境自治体会議があり、懇親会の時に私がうろろろしていると、川崎さんが豊中市の環境グループの方々を紹介してくださいました。そういうさりげない配慮の暖かい人です。その環境グループの方たちと川崎さんはとてもよい「お仲間」のように見えました。

今、市民参加とか情報公開ということが、割合普通に言われるようになりましたが、それを本当に実践するのは、きっと大変なことだと思います。市民の活動と市の施策を結びつけるのは、口で言うのは簡単ですが、よほど両方のことが分かっていないと難しい。しかも、とても時間をとられることだと思います。川崎さんはそれをするのでできた「稀有」な人だったのでしょうか。

先日のご論文を送っていただきました。それなのに私は、お返事を差し上げる機会を逸してしまいました。それは、とても緻密で、簡単に読んですますことのできないものだったからです。いつも前向きで、課題に取り組んでおられた川崎さん。きっと最後まで、納得のゆく道を歩まれたのでしょうか。

ご冥福をお祈りします。

種を蒔くひと = 川崎健次さん 豊中市伊丹市クリーンランド労働組合 執行委員長 宮本 信隆

川崎さんが足早に歩いている。会議の帰りなのだろうか、それともこれからなのか。そのような川崎さんを豊中の街角で、よく見かけた。

川崎さんとの出会いは、随分と以前のような気がする。確か、自治研集会在が最初だった。「豊中市職の川崎と言う人が、環境課題で発表するらしい」「誰?」「市職!?環境の取り組みしてたっけ?」といった調子であった。それが、あれよあれよという間に...

「理屈」と「理論」の違いは、実践してみるかどうかだと思っている。川崎さんは、その意味では実践のひとだったし、理論家だった。また、私達の用語でいうオルガナイザーでもあった。私達の最大の弱点は「市民」との付き合いである。川崎さんは、物怖じせずどんどん入っていく。そして、組織化していく。その成果が「アジェンダ 21 推進会議」であるし、「とよなか環境市民会議」となった。ある種行政マンとして特異な存在ともいえる。

「市民と一緒に堆肥化実験をするので、そち地を借りて欲しい」と人を介して頼まれた。「えですやん」と二つ返事で引きうけたが、はじめて



らの敷えことみると

日ごろ慣れ親しんだ「ごみ」の匂いではない。それも、尋常な臭いではない。水分調整がうまくいかず、「発酵」せずに「腐敗」していた。職場からの苦情に「川崎さん堪忍してなあ。引き取って～」と、随分苦情の電話を入れたことも懐かしい。それがいまでは、「緑と食品のリサイクルプラザ」となり、市民との協働事業として展開されるまでになった。

川崎さんは、豊中の地に「環境」の種を蒔き続けてこられた。芽を出した種が少ないのが、気がかりなのかもしれない。一粒万倍として収穫できるか、私達の課題として残された。

昨年のおツ井の環境自治体会議では、一緒に秋田の駅前で稲庭饅頭を食べた。今年は、拙文の参加報告書をメールで送った。うらやましいとの返事があった。また、来年は一緒にとも…。

「温暖化防止ですわ」と、歩く川崎さん。まだ、もらった本は読み切れていない。読みながら、私も川崎さんの後を歩きたいと思う。

エコマネジメント研究所 森下 研

川崎さん、突然の訃報に接し、本当に残念です。環境自治体会議で、車座になって、自治体の環境マネジメントのこと、自治体経営のことなどを議論させて頂きましたときのことを、昨日のこのように思い出します。あの時の川崎さんの熱い思い、「自治体かくあるべし」との信念やお言葉が今も膾に、耳に焼き付いています。そう川崎さんは本当の意味での「自治」体職員でしたし、好夢員でした。川崎さんの思いや業績は、必ずや次代の自治体職員たちに引き継がれていくものと信じます。

川崎さん、本当にお疲れ様でした。そして本当にありがとうございました。安らかに眠り下さい。

山本 修（豊中市職員組合）

川崎さんとは、たしか市役所に同期で採用されたと思います。1974年に、3名で当時の企画部に配属されたと記憶しています。川崎さんが環境の課題に関わっておられる頃は、組合の役員でしたので、何度も話をしました。昨年末に、体調がよくないという話を職場の方から聞いて、環境政策課から「くらしかん」に異動されたことが原因かなとか、漠然と考えていました。今回の突然の訃報を聞いて、最近に川崎さんと会ったことを思い出しました。今年の1月に、池田の尊鉢さんに厄払いにでかけたときに、犬と散歩している川崎さんに会いました。6月には、家の近所の「白ラーメン」で、たしか息子さんと一緒に食事をされているときに会いました。そんな出会いがあったので、川崎さんが亡くなったことが信じられません。川崎さんのご冥福を心からお祈りいたします。

川崎さんとの再会は地球環境学舎の博士試験の時だった。試験の順番を待っていた時に出てきたのは、川崎さんだった。「ああ！ひさしぶり！」いっきに緊張がほぐれて試験をリラックスしてうけられたことがまだ記憶にあたらしい。

私からみた川崎さんは一生懸命仕事をやって、学生として研究もやって、非常勤講師で学生も教えて、さまざまな自治体との勉強会もやってとエネルギッシュでパワフルな存在でした。同じ大学院で同じゼミで同じように社会人学生をしている自分とくらべて、川崎さんは私からして信じられないくらいにまじめな学生でした。「ああ、私もがんばってやらないと」とどれくらい励まされたかわかりません。研究活動について地球環境学舎の発表会で報告された時にも、理論の構築がしっかりされていてどこからこのような時間とエネルギーがでてくるのかなぁなどと尊敬しきりでした。

目標に向かって私の少し前を走ってくれている同期の川崎さんがおられなくなって、なんだかぽっかりと穴があいた感じがします。いつも心の中で川崎さんもがんばってるんだ。わたしもやらなきゃ。と思わせてくれたあたたかくも厳しい存在が川崎さんでした。これから私がやれることは研究活動で川崎さんが果たせなかった思いを実現することだとおもいます。私は私なりのアプローチでよりよい地域の環境を作り出せる手助けをする研究をしていきたいと思っています。

ご家族のお話をされる時には研究の時とはちがった顔で本当にうれしそうにされていた川崎さん。その笑顔が忘れられません。ご冥福を心よりお祈りしております。

川崎さんの思い出 隣の市職員から 山本作治郎(吹田市役所)

川崎さんとは、隣接する市の公務員同士で、1990年ごろだったでしょうか、都市のヒートアイランド現象を取り扱うということで同じ課題をテーマにしていたことから付き合いが始まりました。隣接市といってもなかなか付き合いがあるわけでもなかったのですが、私どもの企画が、川崎さんの目に入ることができたため、お電話をいただきました。

以降、雨水利用の話や、環境配慮指針その先駆性など教えていただきました。ブラジル会議以降は、われわれの市ではいささか課題として大きすぎたのでしょうか、環境行政の真価が問われる状況だったと思います。川崎さんの豊中市の後を見ながらずいぶん教えていただきました。

私は、吹田市というフィールドで、大した実績は上げられませんでした。川崎さんにはかなわないなあという実感です。図らずも人事異動という宿命的裁断の元私は環境行政から離れました。化学屋という職種から、機械屋の川崎さんとは違った待遇を受けたのかもしれませんが。離れてからも川崎さんの実績にはうらやましく思っていました。

アイデアと行動力。情報力もさすがでした。前者では、あまり負ける気がしなかったのですが、後者に関しては提灯に釣鐘といったところでしょうか。

市民と行政、事業者の協働をどう実現するか。その具体例はどこにもなかったのではないかと思います。協働という単語すら辞書にないと怒られたりした時代です。これを実現するために川崎さんのバイタリティと行動力が見事に実を結んだと思います。私も同じ価値観であったかどうかは確かではありませんが、この3者の協働に向け準備に入っていました。環境の分析をする職場での発想でしたので、豊中に比べればずいぶん小さなものでした。毎年、機会あるごとに豊中市の催に接して、大きな力をいただいた気がします。

そんな中で、冷やし半分には誘った技術士の試験では、いとも簡単に合格されるし、さらに大学院まで進みマスタードクターを目指すなんて、積極さには舌をまきました。しかもこれらを成就されていくのを横で見ている、うらやましくもありました。

川崎さん自身が蓄えられた知識やノウハウは誰がついで行くんでしょうか。大学での講義もなさったとか。あなたならきっといい先生になれたと確信します。行政の中ではどこかで誰かが後をついでくれるでしょう。10年前に話していたことが、国政で方針化されたり、全国の自治体が、何らかの形で具体化していると思います。環境政策の議論は、大きな課題や分野でこそ目立っていますが、ローカルなところでの実践という目立たないところでの実績はあまり評価されないとも思います。しかし、間違いなく川崎さんの語っていた方向での実績が認められてきていると思っています。

やり残したこともまだまだあったと思いますが、最後に随分がんばられたのだと思います。講義の資料をまとめられたらいいのになと思います。

川崎さんの思い出と残された課題 山本 将(豊中市民環境会議・CASA・環境安全センター)

川崎健次さんの御逝去の報に接し、心からお悔やみ申し上げます。

私が、川崎さんとお会いしたのは、1996年頃、ちょうど豊中市民環境会議が結成されるころでした。当時、私は、豊中市の近くの大阪大学に通っており、大学の環境サークルの先輩に紹介をして頂きました。その後関わった、豊中市のローカルアジェンダ21の策定・推進の過程ではいつも川崎さんにお世話になっていました。よく私の発言が硬く、教条的であることを戒めて頂いたものです。市民運動の優れた感覚を持っておられたと思います。環境学習会出前組織「エコキャラバン隊」の名付け親でもありました。

川崎さんは、私が真剣に議論をし、個人的な繋がりを持つことのできた最初の公務員でした。学生時代には、公務員と言えば、川崎さんをイメージし、パートナーシップを掲げる以上、どこの自治体でも川崎さんのような仕掛人・コーディネーターが働いているのだと考えていました。しかし、これは間違いで、川崎さんは、おおよそ現在の公務員らしくない、特別に見識深く、志高い方なのだというのが後のことでした。

川崎さんは、コミュニティ・シンクタンクを作ろう、パートナーシップの学校を作りたいとおっしゃっていました。私は、今後のNPO活動でそれを実現してい

たいと考えています。

最後にお会いしたのは、7月5日のパートナーシップ研究会でした。ローカルアジェンダ 21 の意義・役割にこだわり、再確認を促しておられました。当日、私は別れ際、「NPO などの不安定な職よりも、地方ででも公務員をして経験を重ねるように」とまた戒められましたが、私は、「自分は当面市民運動で行く。残された時間も人手も足りない」と突っ張ってしまいました。公正で持続可能な社会の実現へ向けて、人類の行動課題アジェンダ 21 への挑戦、市民運動と政策実現過程の革新を誓いたいと思います。

川崎さんの急逝を悼む 原沢英夫（国立環境研究所）

川崎さんには、環境科学会年会のシンポジウムをきっかけとしているいろいろ教えていただきました。中口さんと最初にシンポジウムを企画したのが 1997 年で、「地域環境計画の新たな展開と環境研究者の役割」というテーマでした。シンポジウムへの参加を川崎さんをお願いしたところ、快くお引き受けいただき、発表も質疑応答も、環境行政のプロという印象をもったのが出会いでした。と同時に、研究者としても優秀な方という印象が強かったことを今でも覚えています。

その後も、2000 年、2002 年と発表していただきました。取り上げるテーマが少し堅いこともあり、なかなか参加者が増えず、参加者が少ないから次年度は止めようかと中口さんと弱気になっている時には、励ましの言葉をかけていただきました。昨年のシンポジウムが、いろいろ教えていただく最後の機会になってしまったことは、たいへん残念で仕方がありません。

最近では、大学で教鞭も取られていたとのことで、これから「環境行政と研究」を結ぶ重要な時期に入ったときに、急逝されたことは、ご本人もさぞかし無念であったことと思います。

川崎さんの積み上げたいろいろな成果を受け継ぐとともに、川崎さんがライフワークにしていたと思う「環境行政」について、遺志をついで微力ながら、進めて行こうと思っている次第です。

川崎さん、やすらかにお休みください。

彼のパワーに乾杯 茨木かづ子（とよなか市民環境会議アジェンダ 21）

私は川崎さんとは 15 年くらい前に、私がある会で市の環境部（当時の公害対策課）の協力を得て川の観察会をはじめて企画した頃にお知り合いになりました。市民環境会議を立ち上げて、豊中版アジェンダ 21 を作った時には私はあまり深くかかわっていなかったのですが、川崎さんとは何故か縁があり、細く長くのお付き合いをさせていただいていました。

ちょうど 4 年くらい前だと思いますが、市役所の食堂の生ごみを堆肥化する実験をしようという話が持ち上がり、川崎さんを含む 6 人のメンバーが集まって相談を始めたのでした。ちょっとおもしろそうな話だなとつい乗ってしまった私でしたが、その時にはまさかそれが大きく発展して、市が堆肥化施設を作ることになるうとは夢にも思いませんでした。その後、そのメンバーの熱心な活躍が実を結び、たくさんの協力者も得られて、何度か実験を繰り返すことができたのでした。あの時

係わった人たちは私は今でも同土のような気持ちでいます。川崎さんとも同土のような親近感を持っていました。

川崎さんはこの堆肥化実験のようにゼロのところから何かを作り出すということの上手な人でした。市民環境会議を立ち上げた時もそうでしたが、そういう時の彼のパワーはすごいものでした。そういうパワーはどこからくるのでしょうか？彼の深い思いがどこあったかは私にはわかりませんが、とにかく彼が残したものは大きいと思います。今でこそパートナーシップという言葉があたり前のように使われるようになりましたが、市民環境会議を立ち上げた頃はまだまだ市民と行政との間の乖離は大きく、ちょっと型破りな行政マンの彼がいたからこそ実現し、続けて行けたと言っても過言ではないと思っています。

市民と行政と企業の3者が協力し会える関係はまだまだこれからが本番です。こんな時に川崎さんがいなくなったことは本当に残念ですが、川崎さんが常にこだわっておられた市民と行政のパートナーシップの芽は着実に育っています。私たちはその意志を受け継いで、しっかりと育てていかなければと思います。

平成9年度のこと 山口千寿（北海道庁 / 札幌医科大学）

私は当時、北海道庁職員でありながら、平成9年度、1年間、大阪の民間企業で研修することとなり、その一環で、自治体のIT化のお手伝いのような仕事をしておりました。自治体営業の度に、ついでに何か面白い情報はないかと、市役所の情報公開コーナーなどをのぞき込んだりしていました。

そんな矢先に、「とよなか市民環境会議」を知り、川崎健次さん、担当の佐藤徹さんと出会い、エコライフ部会やホームページなど、関わりを持つこととなりました。

地域の皆様の熱心な自発的な活動ぶりにも感銘を受けましたが、川崎さんをはじめとした事務局の皆さんの、会議運営へのご配慮も相当のものであると感じておりました。川崎さんの部会での対応に、ふところの深さを感じておりました。

市民活動と行政が一体化した取り組みのひとつのモデルとして、一行政マンの立場から、北海道に持ち帰るにふさわしいおみやげとっておりました。

研修外のことではありますが、研修レポートにとよなか市民環境会議のことを書き忘れることはありませんでした。

人事異動の通例なのか、札幌に戻り、大阪で培ったものと全然関係ない、市民活動とは縁のない仕事の担当にはなりましたが、佐藤さんとは年代も近く、引き続きおつきあいをさせていただいています。

しかし、川崎さんとは、電子メールで若干のやりとりをした他、最近は疎遠となっており、今年は、涼しくなった頃にでも、久しぶりに大阪に遊びに行った時、顔を出したいと思っていた矢先、今回の訃報に接することとなりました。大変残念です。

ご冥福をお祈りいたします。

こだわりと情熱のひと

磯部康雄（株式会社ぎょうせい）

私は出版社ぎょうせいで編集をしている者です。ご縁があって法政大学の田中先生、環境自治体会議政策研究所の中口先生、そして川崎さんのご執筆で『環境自治体づくりの戦略』という本を担当させていただきました。川崎さんは、お忙しいご公務のあいまをみて精力的にご執筆され、この本の中では主に「ローカルアジェンダ 21」、「行政への市民参加」についてお書きになりました。原稿をいただいてから、本ができるまで、ゲラ刷りのやりとりが何度かありましたが、その度に川崎さんのゲラは真っ赤になるほど赤字がたくさん入り、電話でのご指示も何度となくいただきました。それほどご自分の原稿には責任をもち、正確でより良いものをつくりたいというにこだわりと情熱を持った方でした。

ご執筆された内容のとおり、自治体の職員としてその業務にこだわり、市民とのつながり方を模索しつづけた川崎さん。床に伏すぎりぎりまで、大学で講義をし、執筆活動をされていたと伺いました。まさにこれからのご活躍が期待されていた矢先の急逝となってしまい、編集者としても逸材を失った思いで、本当に残念でなりません。

今はただただ川崎さんのご冥福を祈りたいと思います。

川崎さん色々ありがとう

南部満（エヌエス環境株）

こんなに突然お別れの日がきてしまうとは残念でたまりません。

以前池田市立病院にお見舞いに行った際には血色もよく、とても病人とは思えないほど元気な姿を見て、とても安心したばかりでした。病院のベッドでもPCで色々な論文を書いたり、情報を収集したりと、私たちに「少しでも俺を見習ったら」と思わせるくらい、精神的にも立派な病人でした。そんなあなたにどれだけ励まされたか分かりません。

思い起こせば、技術士の受験を控えて夏の昼下がり勉強会のため何回も集まりましたね。お互いの論文について批評しあった際、川崎さんの指摘はとても的を得ていて、「論文はこう書くべきだ」「起承転結が迫力に欠ける」など適切な指導でした。

技術士を取得した後も修士を取得するため、仕事の傍ら学校に通ったり、博士論文も執筆するなど、私たちにとって理想の技術者でした。仲間うちでは「川崎さんを目標に頑張ろうね」とお互いに励ましあっていました。

川崎さんの遺志を継いで、少しでも環境の改善に取り組んで行きたいと思います。数々の川崎語録をかみしめ頑張りますので天国から見守っててください。

どうかやすらかに眠りください。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

川崎健次氏への哀悼の辞 表)

笹谷 康之（環境パートナーシップ研究会幹事代

川崎健次氏は、環境パートナーシップの現場を、そしてローカルアジェンダ 21

を、こよなく愛された。

筆者は、青森県野辺地、茨城県古河、熊本県水俣での環境自治体会議などでその警咳に接して感銘を受け、大津、京都の環境パートナーシップ活動に対して聡明なご助言をいただくとともに、ナチュラルステップ・ジャパンが2001年10月17日に開催したシンポジウム「環境の世紀へ、地方自治体の挑戦～ESAM社ラータ氏を迎えて」(京都)に同席された発表者として迫真の報告を放っていただくなど、多彩な活動を目の当たりにした。そして、2001年12月には川崎氏より、関西の自治体の職員を中心に、コンサルタントや研究者を集めて、環境パートナーシップ研究会を設立したいという卓抜した先見性のある提案を受け取り、同研究会を始動させるに至った。

川崎氏の慧眼は的中し、今日までに5回の研究会を終え、各地の自治体の環境パートナーシップの現場で苦勞されるメンバーが集い、本音で活発な意見交換を行うことができた。

病を患われてからも、氣力を振絞りと、病を押して研鑽を積まれた。去る7月13日には、全国のローカルアジェンダ21の調査に対するエネルギーな提案をメールで頂いたばかりだが、その返事を返せなかったことは筆者の禍根の至りである。

環境パートナーシップ研究会を代表して、その威徳を偲び、川崎氏の意思を継いで、全国各地に環境パートナーシップの大きな潮流を生み出さんと決意し、ここに哀悼の意を表す。

川崎さんへ 伊丹市みどり環境部環境保全課 藤澤早苗

7月5日の環境パートナーシップ研究会でお会いした時は、とてもとてもお元気そうだったのに、ほんとに信じられません。

川崎さんには、まだまだ教えていただくことがたくさんあったのに残念です。

私も行政マンとして、これから環境行政にかかわらずさまざまな業務に携わることと思いますが、川崎さんをお手本にがんばっていきたくと思います。

ご冥福をお祈りいたします。

地域を大切にされた川崎さんを偲んで 田中 秀穂(環境省地球環境局環境保全対策課環境協力室)

突然の訃報に接し、たいへん驚いております。元氣にご活躍のお姿ばかりが、私の記憶には残っております。

川崎さんと私の出会いは、私が大阪府の騒音・振動係に移ってきた時からですから、かれこれ17～18年になります。業務に非常に熱心な方との印象がありました。

その後、自治労の自治研集会でもたびたび発表しておられたと記憶しております。仕事に組合にとパワフルな活動を続けておられましたが、もっとも関心したのは、仕事でも、組合でも地域との関わりを大切にされていたことです。よく、地域との連携ということは、謳われますが、川崎さんは、それを体現された方だと敬服しておりました。

彼と最後にお会いしたのは、豊中市の環境マネジメントシステムの研修会にお招きいただいた時です。大阪府の環境 ISO の取組みを紹介させていただいた後、技術士を取られたことをお聞きしました。お互い、それぞれの道を歩きながら、色々な接点があったことを思い出します。

まだまだ、これからご活躍をと期待しておりましたので、たいへん残念でなりません。

故人様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

なぜそんなに生き急いで？ とよなか市民環境会議アジェンダ 2 1 奥野 享 (おくの すずむ)

あなたは、なぜそんなに生き急いで私たちの許を去ったのですか。7月5日、尼崎で開かれていたパートナーシップの研究会にコメンテーターとして前に座っていたあなたが「多くの報告の中に『アジェンダ』の言葉のなかったのが残念です」と語ったのが今も目の前に彷彿とします。

7年前、あなたはとよなか市民環境会議が発足するや、すぐにローカルアジェンダを作ろうと提案し、KJ法などでワークショップを試み、不馴れな市民を戸惑わせました。でもそのおかげで、市民活動家は多くを学び成長しました。あのときのエネルギーに満ちたあなたの情熱的な説得なくして今の市民環境会議はなかったでしょう。

そもそも、とよなか市民環境会議ができたのも、あなたの情熱があったからこそで、だから私たちは行政を信頼し一緒に運動をはじめたのでした。私はそのときにつくられた信頼関係について、それが運動の原動力だと、行く先々で誇らしげに語ることにしています。

とよなか市民環境会議のスタートは確かに戸惑いつつの船出でした。でもそのときに、立場の違う事業者と市民が一緒にテーブルについて、環境問題を話し合うという画期的な枠組みも創られました。そこには環境を語るときのあなたの比類なき理想主義が輝いていました。

私たちは今、そのときに創り上げた、市民と事業者とのパートナーシップをアジェンダ見直しの時期にあたって、何よりの豊中の財産として継承し大切に守り育て発展させようと決意しています。

川崎健次さん、あなたが豊中の環境問題の運動に播いて来た沢山の種は7月の慈雨に育てられ、いよいよ輝きを増して引き継がれ、拡大されて行くでしょう。私たちはあなたの遺志を引き継ぎ環境問題の運動を大切に育てて行きます。どうぞ安らかに眠りください。

川崎さんとの思い出 大阪大学大学院工学研究科土木工学専攻 新田保次

ほんとに惜しい人を亡くした。残念でたまらない。
これから一杯、活躍してほしかったのに。

社会も、川崎さんのような人の活躍を求めているのに。

川崎さんとの出会いは、私が豊中市の環境審議会委員になってからなので、日は浅い。10年にも満たないが、強烈な印象を与えてくれた人である。

特に思い出すのは、ローカル・アジェンダと環境基本計画づくり。川崎さんは、ユニークな時代を先取りする視点を持っており、随分、私も勉強になった。

私が、英国に、1999年から2000年にかけて留学しているとき、川崎さんとは、頻繁に、メールでやりとりした。ちょうど、私が本を執筆しているときで、豊中のローカル・アジェンダの紹介をしたいと思い、川崎さんにいろいろ頼んだ。いつもレスポンスが早く、資料も送っていただいた。

また、川崎さんの紹介で、ケンブリッジ大学に留学していた環境省の人にも会い、川崎さんの交友の広さに感心したりした。

川崎さんは、英国の各自治体のローカル・アジェンダづくりにも関心を寄せ、随分研究し、論文も書いていたことを思い出す。

快活でひたむきな、そして気さくな川崎さんに二度と会えないと思うと残念でたまらない。

「先生、こんな論文を書いたよ。」と、あの笑顔で、ひょっこり現れそうな気がする。

ご冥福を祈ります。

川崎さんとの約束

（株）地域計画研究所 井原満明

川崎さんとは一昨年夏に、英国のツアーで1週間ほどのお付き合いでした。進行性の肝臓ガンと聞かされたときにはショックでした。手術後のメールでも「睾丸の美少年だ」などと冗談を言いながら、「1年後の生存率は90%、それ以降のデータはない。」といい、それでは新記録に挑戦しようと言っていた川崎さん。又、手術後に、私が関わっている岩手県東和町にも来ていただき、自治体の環境政策についてお話をしてくれると言っていた川崎さん。奥様の実家で「農家レストランをやりたい、鉱泉もあるからみんなで楽しもう。是非、一緒に計画を」と言っていた川崎さん、それらの約束を果たさないままに逝ってしまうなんて川崎さんらしくはありません。

川崎さんは、病に伏しているにもかかわらず、私の体にも気遣って、逆に励まされたこともたびたびありました。得意？な冗談も飛ばしながら、メールや電話の向こうには、必死に生きようとしていた川崎さんの「笑顔」が浮かび、それ以上に元気づけられたことも、今では遠い思い出です。

昨年、入院される前に、英国ツアーの成果をまとめようとして、研究助成に応募したり、また「環境技術」の連載の企画を持ち込み、参加者がそれぞれ執筆したことなど、全体のまとめ役を担っていた川崎さんの想いは、それぞれがかみ締めて

いることでしょう。長野での合宿には息子さんが「代理」として参加されましたが、会の世話役でもある中島恵理さんはじめ、皆さんが心配していました。

環境政策に全精力をつぎ込んだ川崎さん、私との約束は果たしてもらえませんでした。大きな成果を頂くことができました。その成果を地域で活かすことをお約束いたします。 合掌

あゝ 川崎健次さん

大阪産業大学 人間環境学部 村岡 浩爾

これは不思議なことだが、川崎さんは決して私の専門に近い人ではなかったのに、何かある度に水の循環や水収支の話をするとうかがった。たとえば都市化が進むと河川の水は少なくなっていく、豊中市の場合はどうですか、ほかに似たような事例はないですか、などと聞くと、いつもの確に答えて頂いたし暫くすると自分の論文や人の文献を紹介して下さった。

豊中市の環境基本計画を策定するため市の環境審議会では私が専門委員をしていたとき、川崎さんは事務局資料を作る重要な一人であった。それは水環境だけでなく、交通やゴミ問題、さらには住民の活動、住民とのコミュニケーションのあり方まで、広い分野に精通しておられた。とりわけ感心したのは豊中市という自治体が決して大都市ではなく、また地方の中核都市でもない大阪の古い由緒ある都市であることを常に前提に、仕事の方向を進めておられたことである。この半世紀に人口膨張したことには違いないが、誰もが豊中という昔からの地名に一種の敬意を抱いており、何よりも住民自身が大きな誇りを持つ街である。それを彼は常に頭に入れていた。そこからはみ出しては行けない、しかし新しい文化と技術は取り入れたい、そんな感じがいつも彼の行動に表れていた。

こんな人こそ新興の大東市にある我々の大学で話をしてもらいたい、しかも我々の学部は新しくできたもので、新鮮な学生に地方行政における環境問題を論じてやってほしい。こんな願いは私だけでなく同僚の教員も当然思っていたことで、この二年間非常勤講師を務めていただいた。学生たちはなまの環境問題と行政施策のあり方に触れ、なんと幸せだったことか。

川崎さんは豊富な実務経験があるとはいえ私よりずっと若い方である。その川崎さんがよく私に話してくれたことは、私などもう失いつつある知識の磨きと貯えに対する情熱であった。私の部屋で再び学窓への復帰と科学への挑戦を話されたとき、羨ましい、目が輝いている、と感じたものである。彼はいずれ若い学生や住民の気持ちに応える指導者になる人だと思っていた。なぜそんなに早く逝ってしまったのか。もっとつき合いたかった。残念だ。

ローカルアジェンダ、パートナーシップの思いを引き継ごう

愛知県春日井

市教育委員会学校教育課

東瀬野克之

予想だにできなかった報せに、ただただ驚くばかりです。そして残念でなりません。

7月5日の環境パートナーシップ研究会では、最後のコメンテーターとしてお元気に発信をされていました。発言の冒頭、「遂に、(当日の会議では)ローカルアジェンダ(の文字)が無くなった」と仰ったときの、川崎さんの寂しそうな表情が忘れられません。また、会議終了後、互いに会話しようとしながら、他の方の呼びかけに振り向かれて、結局、お話が出来なかったことが今となっては大変悔やまれます。

4年ほど前に名古屋市で開催された講演会の際、初めて豊中市の川崎さんにお会いしました。愛知県においては、ある意味、初めて環境基本計画による社会の仕組みづくりと市民活動を創出していく仕事に取り掛かるにあたり、私どもに大きな元気をくださいました。「市にとって、市民は株主であり顧客である」との、両者の関係を表現する社会的で明解なメッセージは、今でも、参加した春日井の職員に刻印されています。

その後、春日井市で開催した環境自治体会議、環境基本計画の策定、パートナーシップ会議の設立にあたって、幅広い観点からの指摘やアドバイスをいただき、そのお陰で、職員だけでなく春日井市民にも、その精神は受け継がれています。進行管理どのように実行しパートナーシップを形成しながら、ローカルアジェンダをいかに実現していくかという、川崎さんが先駆者として苦闘された探究と教訓を、私たちは「猿マネ」の実践を重ねながら、今後経験し学習していくことでしょう。

ドイツの全体主義に反対した思想家ハンナ・アレントが「人間の条件」で表した「労働、仕事、活動」の意味を、実践で表現した川崎さんを失ったことは返す返すも残念です。安らかにお眠りください。

川崎さんについて思い出すこと **アジェンダ21 生活部会 宮田 健**

豊中アジェンダ21が生まれるまで、会議・会議で夜遅くなることも度々でした。終わって帰りしな、お馴染みのリュック姿でにこやかに別れを言って、夜道を歩いて去って行く姿が、昨日のように思い出されます。平成10年に、地球温暖化防止活動についての取り組みが認められ、環境庁表彰を受けたこと、平成11年には地域省エネルギー実践活動優秀事例表彰を受けともに喜び合いあったこと等懐かしく思い出されます。川崎さんの熱意お力のお陰と誰もが、認めるところでしょう。

さらに職場をかわられてからも、また病に倒れられてからも、市民活動のあり方、進め方についての卓見をシンポジウムでお聞きし勉強させていただき、励まされました。闘病生活の中、病院を抜け出し駆けつけて熱弁を振るうお姿には、頭が下がる思いでした。環境問題への情熱が、難病にさいなまれた身体をここまで支えてきたのではなかと、神気迫る思いでした。

この6月には、ようやくNPO法人の設立に向けて申請の手続きをとることができました。これからが本番を迎える市民活動、川崎さんのお力添えが欲しいこの時期なのに、本当に残念でなりません。

数年前の休みの日、私の自宅の近くを流れる千里川沿いを家内と歩いていると、リュックを背負った川崎さんに出会いました。日曜出勤しての帰りに川の様子を観

察しながら、五月山のご自宅まであるいて帰る途中とか、直ぐ目の前の川岸に十数本ある柳の木を話題に、護岸に関してのお話を交わしたことがあります。あれから箕面へ川沿いを散歩がてら買い物に家内とこの柳の前を通ると、川崎さんとここでばったり会ったねと、思い出したように話題になることがあります。

亡くなる数日前に病院のベットで、静かに眠る川崎さんにお会いしました。お話を交わすことはできませんでしたが、帰りしな川崎さんの太くて暖かい手を、励ましの気持ちを少しでもお伝えしたく握りしめましたが、今思えば自分自身が励まされたのではないかと、その感触が身体に刻み込まれて忘れられません。ありがとうございました。川崎さんの思いを込めたメッセージをいつまでも忘れずに、今後の活動に生かして行きたいと存じます。

安らかな眠りに心からご冥福をお祈り申し上げます。

川崎さんを偲ぶ 池田市環境にやさしい課環境政策担当 中村 昌史

川崎さんが池田市にお住まいになって、公共下水道の問合せのため、市役所の来られたのが、最初の出会いだと記憶しています。その後、開発指導の件で、「豊中市環境配慮指針」について説明を受けた時に、あの時の人だとなつなつたのを、いま、なつかしく思い出しています。

平成10年4月の環境政策担当に異動となり、「公害から環境への取り組み」を始めるについて、最初に教えていただいたのも川崎さんでした。まさに、環境先進都市「豊中市」の「かお」であったと思います。

ご一緒した長浜市での環境自治体会議の中で、「庁内で環境の部門は野球でいえば2番バッターぐらいにはなったかな」「市民の人たちは市職員をほめてほしい」と温かく発言されたことが印象に残っています。仕事に熱く、人に温かいひと。大学で自身も学びながら、若い人たちに指導もされ、環境のまちづくりの理論と実践、取り組みのすそ野と頂点を行き来できる数少ない人でした。そして、川崎さん自身にとって、これからは自己実現のステージという時であっただけに残念に思います。

地元の池田市の取り組みへのご指導とご支援、ほんとうにありがとうございました。

川崎君、早すぎるぞ!!! 友人 田口圭介

川崎君との出会いは、もう20年以上も前だったと思います。当時、公害関係の職場におられ、地域の方からの相談で現場にアドバイザーで来るように依頼があったのが最初だったと記憶しています。

住民側は河川に階段をつけて欲しい、河川のゴミも自分たちで回収したり、自然観察の場として、もっと活用したいと考えておられました。当時管理者であった大阪府はその掘割式の河川への立ち入りを禁じ、フェンスをめぐらしていたのですが、

川を地域に取り込みたいという要望を持つ住民の要求を府と住民の間に入ってどうしたら実現できるか、微妙な立場での意見を私の口を通して言わせたフシがあります(今にして思えば、あの人なつっこい笑顔につられたなど)。

結局、川崎君らのアドバイスもあって、大阪府は初めての試みだったらしいですが、フェンスの一部を開け、戸をつけ、川へ下りられるよう階段をつけました。今でこそ河川の親水事業としては当然として受け入れられるかもしれませんが、当時としては画期的なことだったと記憶しています。

その後もヒメボタルの保護についての庁内組織の立ち上げや環境関連市民活動発表会運営などについて意見を求められたり、助言者で引っ張られました。そうした実践を通して培われた思想が全国に先駆けた豊中市環境基本計画やローカルアジェンダに実を結んでいったと思います。その後は全国版の活躍でした。

最近では川崎君は治療の傍ら若い大学生に環境と自治について講義をされていたと伺いました。秋からの新しい大学での推敲中の講義ファイルを奥様が見せて下さいました。

まだまだやりたいことはあったと思います。あなたの遺志をきっと引き継がれる若い方もおられると思います。ご苦労様でした。ちょっとお休み下さい。

合掌

川崎健次さんを偲ぶメッセージ 健次さんのご冥福を、お祈り申し上げます。

大学時代の友人です。彼といろいろな活動に参加していたものです。30年以上も前なので、あまりはっきりとは覚えていないのです。申し訳ありません。一番の思いでは、歌声サークルを彼といしょにつくったことです。大学紛争、反戦運動、歌声運動の盛んなときを、彼と一緒に大学で活動したことです。

今朝、愛媛の友人から電話が入り、大変びっくりしています。最近、健次さんにはまったく連絡していなかつたことを、大変申し訳ないと思っています。

今、18年前のご家族の写真を前にして、メールを書いています。

真澄様、裕治君、耕治君、由紀子さん、ご家族の皆様、お悔やみ申し上げます。お体を大切に、がんばってください。

さようなら

愛媛大学 45年卒業
大阪市平野区喜連東 大野 満

大いなる子

NPO法人イー・ピーイング 理事長 井上健雄

語りあいの尽きない人、笑顔がいつも子供のような人、もう待ちあわせができな

くなりました。

しかし、心に楽しい思ひ出と積極的な意思力を残してくださいました。

旅立ちには誰にでもあるものですが、

私たちが長い時間しか残せない大いなる遺産を残されたのですね。

ちょっと、せっかちだけど……

川崎 健次君へ

摂津市別府 古賀 寛

(愛媛大学文理学部 S42 入学)

大学卒業後は、年1回の年賀状のやりとりで、家族や仕事や活動のこと、そのときどきの想いなどを知る程度だったが、元気にやっているとはばかり思っていました。病氣と闘い、ましてこんなに早く逝くなんて、とても想像できない。意識不明の連絡を受けて学生時代の何人かの学友に電話をしたが、みんなみんな健在じゃあないか。

在学中の、柔和な笑顔と柔らかい大阪弁と一緒に歌った姿、いろんな迷惑をかけても私への友情を示してもらった姿、そのような姿ばかりが思い出されます。

残された家族の皆さんに、心からお悔やみを申し上げます。

川崎様の論文にふれて

ぎょうせい月刊「地方財務」編集長 川原正信

御生前中には「地方財務」に論文を執筆していただくなど、御懇意にさせていただいておりましたが、メールでのやりとりだけで、直接お会いして、お話ができませんでしたことを、誠に残念に存じております。

論文中に「持続可能な発展ができる社会への転換という課題は、社会を構成する一部の人のみでの存在がかかっているのではない。地球生命圏に対する人類社会の責任をどうするのかといった大きなスケールから、今日の自治体や行政政策の転換のあり方を改めて問い直す必要がある」との記述に感銘を受けました。

この御意志を継いで、市民活動や出版活動を行っていくことが川崎様の生前のご厚意に報いることだと私は考えています。

謹んで川崎様の御冥福と御遺族の御多幸を心からお祈りして、お別れの言葉いたします。

心やさしい創造的努力家の川崎さん、ありがとう

安全学研究所 辛島恵美子

川崎さんとの出会いは平成11年度から三年計画ではじまった国立環境研究所の「地球環境リスク管理にかかわるコミュニケーションと対策決定過程に関する研究」のご縁でした。科学技術を中心としたリスク管理やそのコミュニケーションはライフワークの安全学の重要なテーマの一つで、長くかかわってきましたが、「安全」の言葉は安易に使うものの、実際には危機管理(crisis management)もむずかしい日本社会で、地球環境リスクほど長期の見通しに対して適切な決定や行動ができ

るものかどうか半信半疑の思いでした。その過程で川崎さんと出会いました。

国際レベルで通用する見通しをもって、その思いの広がりや深さからすればもっと広い活躍の場を求めても不思議ではないにもかかわらず、所属セクションの抱えている様々な制約条件の中で辛抱強く着実にチャンスをつくりだし、活かしていく姿には感動しました。客観的冷静な観察者であるべしとプロジェクトリーダーに忠告されるほど、彼の環境行政への情熱と誠実さは第三者の研究者をして豊中市をふるさとと感じさせるほど人間的魅力にあふれたものでした。リスクマネジメントの本質的課題ともいえる「制約条件をむしろ飛躍の条件に切り換える実力」、それが何であるのかを考えるきっかけと事例をも与えてくれました。

川崎さんが蓄積してきた豊かな知識と経験とを、もっと多くの人々に、多くの組織に伝えて、あたらしい21世紀型の基礎自治体づくりに活かして欲しい...それが彼への希望であり、期待でした。そういう思いを抱いていたのは私一人ではなかったと確信しています。それだけに環境行政への情熱が体調についての関心を抑えて病に倒れさせてしまったこと、その回復を手伝えなかったことが悔やまれてなりません。

川崎さんから頂戴したたくさんの思い出や教を明日の社会づくりに活かすことを、ここに改めて誓い、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

合掌

川崎さんを偲ぶメッセージ 学生時代からの友人 稲垣豊彦

川崎さん、余りにも早すぎました。ご親族の皆様方に、謹んでお悔やみ申し上げます。

川崎さん、あなたが、予期せぬ病で入院したということ、私は昨年12月の末にはじめて知らされました。なにしろ、そのわずか数ヶ月前の8月の終わりに、松山で一緒に過ごして、少し前に亡くなった恩師の自宅も訪れていましたから、この知らせは驚きでした。

ことしの4月の初めでしたか、あなたから電話がありました。「ほら、医者があると何ぼの命やいうてんねん。葬式の日には会えへんから、その前にきてくれるか」

悟りの境地といていいのか、例の毒舌に誘われて、私たち学生時代からのポフ友だけで、5月の連休に「励ます会」を開いたばかりでした。

そのとき、環境問題をめぐる行政と市民のパートナーシップについて、議事を補完する新しい町づくりの視点を、熱っぽく語っていたのが印象的でした。それだけに、川崎さんに、9月の立命館大学で開く講義を、そっくり私たちにも、落ちついたところで聴かしてほしいと頼んでいたのです。

9月にむけて、準備していた講義レジュメと資料を見せてもらったのは、あなたが一週間前に倒れて、翌日のことでした。医者からの宣告を押し返すように、必死で治療に専念し、講義レジュメを準備していたその姿とあなたの執念、誠実さが伝わってきました。

川崎さん、私が始めてお会いしたのは、大学の歌声サークルででした。あなたはフォークシンガーの高石友也、ピートシーガ - が好みでした。当時は大学の自治を守るかどうかで、学生運動が一番激しい時期でした。それから35年、楽道家、毒舌家としてのあなたと、長いおつきあいをすることになりました。

川崎さん、あなたは自らに厳しく、身近な人には時に、遠慮なくはっきりものを

言うこともありました。

同時にあなたは、いつも社会の不合理に抗うものに連帯し、本当に困った相手には、だれであれ、誠心誠意の支援を惜しまない、温かい心遣いを忘れない方でした。川崎さん、私たちはあなたが求めてやまなかった社会進歩への思いをしっかり受け止めます。このことを最後にお伝えし、お別れの言葉と致します。安らかに、お眠りください。

川崎健次さんの訃報に接して

新川達郎（同志社大学）

京都市城陽市では、3年ほど前から、環境基本条例の制定、環境基本計画の策定、そしてパートナーシップ型の環境保全活動を組織化するべく、市民と市当局とが議論を重ねてきました。その策定作業等に私自身もかかわることができました。そのプロセスで、豊中市の試みや川崎さんはじめ豊中の多くの方々からお教をいただきました。城陽市では、豊中をモデルにしながら、その教を積極的に活かして行きたいとの思いで、これまで作業を進めてきました。特に、市民の環境に関する活動を活発にする工夫が重要だということ、豊中での学習から気づかされました。

城陽市では、無事、条例は制定できましたし、計画の策定もできました。そして、この10月には、城陽市民パートナーシップ会議の立ち上げを進めようとしていたところで、この訃報に接することになりました。具体的な成果はこれからということではありましたが、城陽でのその後の報告もできず、大変残念に思っています。

地域から環境問題を考えること、そして市民の自発的な活動がよりよい環境作りの出発点であることなど、川崎さんの実践と理論に裏付けられたお話が、断片的な思い出ですが、浮かんできます。川崎さんの一貫した環境問題への強い意識は、その政策決定の分析にも研究を広げさせるところまで行っていました。そのアイデアを議論しあったことが、つい最近のことのように思い起こされます。

最後になりますが、ご家族の皆様には心からお悔やみを申しあげ、ご冥福をお祈りいたします。

地球環境と市民の生活を守る環境衛生行政の先駆者 大阪府立食とみどりの総合技術センター 食品・資源部 資源循環グループ 主任研究員 藤谷 泰裕

豊中市役所の川崎さんとは、平成9年に茨城県古河市で開催された「環境自治体会議」でご一緒させて頂き、以来今日まで環境行政についてご指導をいただいております。当時まだあまり注目されていなかった環境行政について熱く語られていた川崎さんに、声をかけさせて頂いたことを昨日のことのように思い出されます。私は、そのころは環境汚染の大きな原因の一つとして悪者にされていた畜産に関する仕事をしておりましたが、大いに刺激を受け、その翌年から食品製造副産物の飼料化に取り組みだしました。そして現在では、資源循環部門で、廃棄物から有価物へ再生する技術の試験開発に関わる仕事に携わっていますのも、何とも運命的なものを感じます。3年ほど前には、川崎さんのほうから、私を訪ねてこられ、豊中市での生ごみの堆肥化に市民グループ一緒になって取り組んでおられる状況をお話しして下さり、問題点の解決法などを、逆に相談されたこともありました。

環境行政のエキスパートである川崎さんは、現状に満足、さらには、おごるこ

となく、よりよい住みよい町づくりに汗を流しておられたと記憶しております。

川崎さんの崇高なご意志を引き継ぎ、微力ながら環境問題の解決につながる、無駄のない循環型社会の形成に向けて、新たな技術開発に取り組んでまいりたいと考えております。

最後に、川崎さん、お疲れ様でした。今後とも、ご家族様を見守られるとともに、天の声として、私たちを叱咤激励して頂きますようお願いいたします。

大阪大学 盛岡 通

川崎さんは実に熱心で誠実な公務員で、豊中市の環境行政はもちろん、全国の自治体運営にも良い影響を与えたひとです。ご冥福を祈るとともに、ご家族の方がご不幸の中でも暮らしてゆける事を願っています。25日までにメッセージをお送りする事も出来ず、残念です。

川崎さん、そこでみててね (株)ブレック研究所 辻阪吟子

私が夜中にメールを出したりすると、「こんな時間まで仕事ですか。体壊しますよ。」とってくれてた川崎さんやのに、自分が体壊して、こんなに早くいってしまうなんて。

去年の秋、体調崩したとはきいてましたが、そのあと春になって論文送ってもらったり、シンポジウムの案内もらったりしていたので、元気になられたのかと勝手に思っていました。この春ごろは、私が自分に余裕がなく、せっかくの論文やメールに、よう返事しませんでした。考えてみたら、その頃、川崎さんは既にガンの転移がわかったころだったはず。そんな状況にありながら、論文をかき、講演の資料をつくり、いろんな人に情報発信してられたんですね。返事も書けなかった自分が悔やまれます。もっといっぱい議論して、もっといっぱい川崎さんから吸収しておきたかった。

体調崩されたとのメールに、役所と大学と二足のわらじで疲れがでたとちゃいますかと書いたら、真のパートナーシップ政策をどう具現化させるかが自分のテーマだから「二足のわらじがあってこそ」と返事をもらいました。二足のわらじがあるからこそやる気と生き甲斐がわき起こってくるとも書かれていました。そういえば、川崎さんからのメールは早朝、5時とか6時によくはっていました。「また十三でビールでも」なんてフレーズのあとに、まじめな議論が展開されてました。理想と信念と行動、真摯に生きておられたと、尊敬の念を新たにしています。まじめな議論をしながらも、あの語り口、あの風貌のかもしだす柔らかさ、人情味、それがあいまって、本当に得難い先輩であり、仲間であったと今更ながら思います。

もっといっぱい話して、もっといっぱい一緒にお酒を飲んで、一緒に仕事したかった。私もさぼってたらあかん。川崎さん、そこでみててくださいね。私もがんばるから。

ご家族の皆様へ 心よりご冥福をお祈りしております。

東京・生活者ネットワーク（杉並・生活者ネットワーク） 市橋 綾子

第1回環境自治体会議の池田町が川崎さんとの出会いでした。いつもニコニコさ
れていて…。

それ以降、私は1年おきに環境自治体会議に参加していますが、「また来たね」
といつも迎えてくださいました。いつものニコニコ顔で。

この前が、秋田県の二ツ井。何人かと夜のお花見に行きましたね。

そのとき、環境畑から市民活動に移ったと、ちょっと寂しそうでしたが「川崎さ
んのこれまでは、市民活動と共にあったのだから川崎さんならではの部署でしょ」
といったら、またにこにことして「うれしいこといってくれはって」と笑ってい
ました。

やっぱり環境から離れて寂しかったのだと思います。

環境自治体会議の打ち合わせで東京に来た、とって、新宿にある東京・生活者
ネットワークの事務所にも立ち寄ってくださいましたね。「新宿には大阪よりふぐ
が安いには驚きました」とおっしゃっていました。「じゃ、今度行きましょう」
と。

もう、環境のこと、とりわけアジェンダ21や環境基本計画の見直しのこと、市
民活動のこと、おいしいお酒のこと、話ができなくなりました。

たくさんの知恵をいただきましてありがとうございました。

地域の活動に行き詰まりを感じたとき、行政の中にも市民と共に歩いていく川崎
さんのような方もいるんだと、言い聞かせあきらめずに活動を続けてきました。

こんなに早く、一つ一つが川崎さんの置き土産になってしまうなんて。

しかし、今年に入り、私は統一地方選挙の準備で忙しい日々を送っていましたが
妙に「川崎さんのアドレスが変わったというメールがきていたなあ」「川崎さん今
年は今年の屋久島に行くのかな」「メール、メール…」と気になる日々が昨日まで
続いていました。

今朝、メールをあけて絶句しました。

川崎さん、ありがとうございました。川崎さんからいただいたアドバイスを生か
していきます。少しでも環境がよくなることを目指して活動していきます。

関西総研 井出

川崎さんのあまりにも早いご逝去をお悼み申し上げます。先日、論文をメールで
送っていただき、読ませていただきました。知識の豊富さと論理の明快さに感動し、
川崎さんは、重いご病気を抱えて、なおこれからもご活躍されると思っていました。
失礼ながら、世間一般でいう出世よりも自己実現を選ばれた方であり、私も昨年か
らそういった生き方を始めましたので、先輩としてのご教授も期待していました。
本当に残念でなりません。25日午後は所用のため参上できませんが、残されたご
家族様の一日も早いご回復と、今後のご多幸をお祈り申し上げます。

川崎さんの夢を形に 大津市役所環境保全課 大西政章（環境パートナーシ ップ研究会事務局）

川崎さんは、様々なネットワークで持続可能なまちづくりに邁進されてきました。
わが国や世界で一層のご活躍を期待されていた矢先であり、この度の悲報に接し、

言葉ありません。

私を含めて多くの自治体職員が現場の苦勞、市民との交流の喜びや成果を共有させていただきました。自治体の状況に応じた川崎さんのこまやかなご指導やアドバイスにどれほど多くの仲間が勇気付けられてきたか知れません。

この研究会は、このような現場の自治体職員や関係者が苦勞や課題を出し合い元氣をつける場にしようと、川崎さんの提案により昨年2月に発足しました。7月5月(土)に開催した第5回研究会にも体調が悪い中にも関わらず参加していただき、持続可能なまちづくりの基本として「アジェンダ 21」をきちっと位置付けて、しくみを構築すべきというコメントをいただきました。

体調がすぐれないと聞いていたのにお元氣なようすで、研究会後の懇親会にも最後までご出席いただき、JR京都駅で再開を誓って固く握手を交わしたのがつい昨日のようです。

あれもこれもという気持ちが体力の回復を待ちきれずに、ついつい無理を重ねられたのではとお察しします。

川崎さんの想いや夢は多くの自治体で生きつづけています。

川崎さんの志を私たち一人ひとりがしっかりと受け継ぎ、大きな成果に結びつけられるよう努力する決意です。

是非、天国から応援してください。

合掌

勝手に「戦友」してました 井下祥子(アジェンダ 21 推進会)

「交渉は好きじゃない、一緒にやりませんか？」

豊中市の環境基本計画や施策について、申し入れに行った時のこと。ダイオキシン、太陽光発電、ごみ、それに森林問題のグループが意見を述べ、私のマズイ進行に冷や汗をかいた後でした。

挨拶して部屋を出ようとした時、川崎さんに言われたのです。

「本気やな～」と思いました。うるさいこと言うてくる奴と一緒にやろうとは、真剣にヤル気なんや。

そうか、やるなら、やらねば。

単純な私は、市民環境会議に参加しました。が、マイナーなNGO活動と勝手にがちがい、自分に何ができるのか、戸惑いがありました。

そんな折、帰り道が一緒になった川崎さんと、とことこ歩きながらいろいろ話をし、インド料理店までつきあってもらいました。

「なんか、過激なこと言うてしまいそうです」と言うのと、

あの淡々とした調子で、「もっと、どんどん言うたらいいですよ」

それから、1、2回、お茶や「インドめし」にご一緒しました。「活動のアドバイザー」、のはずが、四方山話しかおぼえてないのですが。

勝手に「戦友」のつもりでした。環境NGOの学習会で講演していただいたこともありましたね。

こんなに早く逝っちゃうなんて、反則ですよ！

(あまり病状を知らなかった私は、「今日のアジェンダのミーティングには、若い美人が来て男性陣が喜んでました。川崎さんも見に来るよーに」などメールを送ったりしたものです)

イギリスに視察旅行のお話を伺ったのが、お会いした最後でした。とてもよい旅だったようで、『リフレッシュできるから、機会があればぜひ行くように』とにこにこ繰り返されました。

ゆっくり、やすんでくださいね。

厳しく、そして大切なものを教えてくれたかけがえのない上司 高崎経済大学専任講師 佐藤 徹(元・豊中市役所)

10年前、私が豊中市役所に入庁したときの上司が川崎さんでした。当時、環境保全係長をされていました。係に配属された私に「これから鍛えてやる!」といわれたことを今でも鮮明におぼえています。私を連れて庁内の関連部局をあいさつ回りしていただいたとき、その先々で「大変なところにいったな。でもがんばりや。川崎さんのもとなら大丈夫や」と口を合わせるように言われました。最初は何のことだかよくわかりませんでした。今にして思うとよく理解できます。

平成6年9月に役所の機構改革があって、環境企画係が新設されました。係長が川崎さんで部下は私だけという2名の小さな係でした。当時は公害行政から環境行政への大転換期にあり、目が回るほどの忙しさでした。平成10年3月、私は環境課を異動しましたが、それまでずっと川崎さんと二人三脚で、新たな条例や計画作り、市民との会議などに休日も返上して取り組んできた思い出は決して忘れることはありません。そんな忙しい中で、若いうちにいろいろなことを学び経験することが大切だからと、快く私を環境庁の長期研修に送り出していただきました。

川崎さんは人一倍仕事に対する姿勢が厳しい方でした。この間、多くのことを教えていただきました。なかでも、プロジェクトが一段落したら論文にまとめておいたほうがよいと勧められたことです。川崎さんは自ら実践されており、すでに何本か論文を投稿されていました。

昨年4月に、京都の四条河原町の駅で偶然お会いしました。仕事を続けながらも博士課程に進まれ勉学に励んでおられるお姿をみて自分も頑張らねばと励まされました。最近、体調を崩されても環境パートナーシップ研究会をはじめ様々なところで精力的にご活躍されていたのに残念でなりません。これからも、川崎さんに教わったことを大事にしながら、歩いていきたいと思っております。安らかに眠りください。本当にありがとうございました。

川崎健次さんを偲ぶ 法政大学(前川崎市役所) 田中充

川崎健次さんに、最初にお目にかかったのは、1992年の自治労政策局の仕事で「環境自治体」の実現に向けた対策手法について調査する検討プロジェクトでした。川崎さんと当時川崎市役所にいた私は、この会議をきっかけに、北九州や山形の自

治体調査に同行するなど親しくつきあいようになりました。1994年6月には、イギリス・マンチェスターの国際会議「持続的開発に関するグローバルフォーラム」に参加し、日本の「環境自治体とエコチェック」の取り組みを共同発表したことも、忘れられない思い出です。

その後、豊中市にお邪魔してお話を伺ったり、東京に出てきたおりに自治体環境政策のあり方について意見交換を重ねる中で、一緒に論文を書き、発表することも行ってきました。その成果の一つとして、2002年には『環境自治体づくりの戦略』を共同執筆することができました。

思えば約10年の交際でしたが、その仕事に取り組む真摯な姿勢に、常に学ばせていただきました。私自身、葛藤や迷いがあり、時には落ち込むこともありましたが、川崎さんの人なつっこい笑顔に励まされてきた気がします。川崎さんが、大学院修士で学び、さらに博士課程に進学したことを聞き、向上心と積極性に大きな刺激を受けてきました。

自治体環境政策の実現も道半ばであり、まだこれから多くのことを一緒にしたいと考えていました。その力量に期待を寄せ、新しい地平を共に切り開いていけるものと信じていました。本当に残念でなりません。

後に残されたものとして、その意思を受け継ぎ、その実現ができるよう全力を尽くすことを誓います。

お力を与えてくださったことに心から感謝を申し上げます。ありがとう。

そして、どうぞ今後もお力を私たちにお与えください。

川崎健次さんは神様でした。

守谷市 渡辺友子

川崎さん逝去のメールを拝見した時には、本当に声も出ないくらいショックでした。私にとっては、川崎さんは神様のようなものでした。ふだんは無宗教といっているくせに、困った事があると、『困った時の神頼み』といって、神様にお願いやら、お伺いにいくのです。川崎さんは神様ですから、いやみもいわず、子ども達の、人類の存続を願って、いろいろアドバイスをくださいました。ですからいなくなるとは、本当に困ってしまうのです。まだまだ神頼みがありましたので、お礼参りもしていません。ろくろくお礼も申し上げられず、失礼のお詫びも申し上げられず、残念で、残念でなりません。

川崎さんのお名前は、守谷町(2002年2月より守谷市)環境基本計画の環境基本計画策定の経緯のページに『平成10年9月30日ワーキング 豊中市 川崎健次氏による基調講演』と載せられています。実は、環境自治体の斜里会議の記録のなかで、『環境基本条例の動向と特徴点』という論文を当時、環境審議会の委員に委任されたばかりの私が見つめました。当時の私にとっては、すべて初めてのことで、役場の方も審議会の方も何もわからない状態でした。川崎さんのその論文は条例策定の経緯、役割と性格、事例を紹介したものでしたので、まさに求めていたものでした。そして、そのコピーを色々なところに配布させて頂きました。

川崎さんに環境権のこととか、他の条例との関係をどうすべきか、豊中市の市民参画の事例などを、ずうずうしく豊中市までお電話を差し上げてお尋ねしてしまいました。いやな顔(声)ひとつせず、誠意を持ってお答え下さり、さらに ”

いま東京へは、よく行っているの、わざわざ講演に行くのは交通費もかかるので、環境庁の帰りに守谷に寄ってもいいですよ。”と言って下さいました。このようなチャンスはないと、環境課の課長に掛け合って、川崎さんの守谷の講演会が実現しました。

この講演会は役場の職員を対象にしたものでしたが町民も興味のある方はどなたでもどうぞ、というものでした。そして、環境条例ができあがりまして。そして環境基本計画策定の際には豊中市や、日野市のように市民を大勢まきこんでと言う状態ではありませんでしたが、公募で、策定委員会を立ち上げる事ができました。守谷町にとっては、初めてのことでなかったかと思えます。川崎さんがいらっしやらなければ、守谷市の環境基本条例と環境基本計画は、どんなものになっていたでしょうか？

また、川崎さんは、市民の側にたって、ものを考えてくださり、とこどき ぼつと 行政側とのつきあいかたなどもおっしゃっていたように思います。川崎さんのような方に自分の生涯の内でも何人お会いできるものでしょうか？

2年ほど前、いろいろなストレスから、（もちろん自分の自己管理の悪さからですが）体調を崩しました。その時、なんとあの神様の川崎さんが、大阪からお電話をくださいました。大変有りがたく、恐縮してしまいました。そのときに、やはり、活動をされている内に、行政側との対立や、活動する人同士の意見の食い違いなどで、連絡がなくなってしまう方がいらっしやるのだと、寂しがっていらっしやいました。いま、この事を思いだし、お礼も遅くなる失礼な私に、論文などお送りつづけてくださったのは、環境への、人類存続への思いなのではなかったのかと思いました。川崎さんへの恩返し(私にとってはお礼参りです)は、市民参加。パートナーシップ。人類の存続。がキーワードでいいのでしょうか？

他にありましたら、どうぞお教え下さいませ。

川崎さんの思いを絶やしてはいけないと、これから『省エネルギービジョン基本計画』策定にとりかかります。どうぞ、なにか、アドバイス頂けましたら、お願い致します。

健次君の人となり 真澄の父 中井 力

私の長女、真澄は、田舎の方々と何回も見合いしたが、すべて断ってきた。しかし、いつの間にかこの多くの方がひしめく大阪の地で、一人の立派な人物を射止めて結婚。真澄の実家は水田を9反、畑地を2反耕作し、ちょうど5月の農繁期、猫の手も借りたい連休に、その男性、川崎健次君が必ず毎年田舎に来て、やったこともない、きつい農作業を終日手伝い、4・5日間の苦勞も顔に出さず、笑顔で助けてくれた。

案の定、市役所においても研究熱心で、勉学にも勤しみ、多くの立派な足跡を残したと聞き、寿命とはいえ、年若く他界したことは、誠に残念の極みです。

編集後記 NPO法人 環境自治体会議 環境政策研究所長 中口毅博

川崎さんの自宅の3階。川崎さんの仕事部屋である。周りを取り囲んでいるもの。NPO、パートナーシップ、アジェンダ...こんなタイトルのA4サイズのファイル、

ざっとみて 150 冊。中を開けてみる。すべてきちんとファイルリングされている。そして数多くの行政学や環境の本．．．。パソコンの中を覗いてみる。約 100 個のフォルダがある。基本条例、生ごみ堆肥化、温暖化対策、行政評価、翻訳作業．．．．。多種多様なフォルダに混じって、「もしかの時」というフォルダがあった。

私たちはこのフォルダの中のリストを頼りに、メッセージ集への寄稿を呼びかけた。学生時代の友人たち、豊中環境市民会議の市民たち、パートナーシップ研究会や自治労をはじめとする自治体職員たち、大学などの研究者たち、民間のNPOやコンサルタントのスタッフなど、川崎さんとなつなりのある同志が、それぞれの思いを寄せた。

このメッセージ集は、川崎さんが命を賭して集めた最後の資料である。そして、我々同志やご家族にとっても一生の宝物を送ってくれた。

川崎さん、ありがとう。

2003年7月24日 川崎宅のパソコンに、これをしるす

編者代表

NPO法人 環境自治体会議 環境政策研究所長 中口毅博

(ご寄稿者一覧) 敬称略

須田 春海、朝田くに子、相川 康子、秋山 日東志、浅井 正、今井 文子、
今橋 克寿、池田 敏雄、宇高 史昭、内山 博史、大野 嘉章、木原 勝彬、
木本 明美、熊谷まゆみ、河野猪太夫、後藤 圭二、酒井、末田 一秀、杉元 勝、
鈴木 知身、新開 悦子、高島 邦子、高田 聡、佐藤 健明、高田 直俊、
高橋 秀行、竹下 涼子、田淵 誠一、角田季美枝、富田 重行、長尾 加代、
中島 恵理、中村 義世、長森 育代、西山 敬三、二宮 衛、橋本 博明、久 隆浩、
弘本由香里、藤倉まなみ、本多 俊之、増原 直樹、水口 剛、宮本 信隆、
森下 研、山本 修、山本 芳華、山本作治郎、山本 将、原沢 英夫、
茨木かづ子、山口 千寿、磯部 康雄、南部 満、笹谷 康之、藤澤 早苗、
田中 秀穂、奥野 享、新田 保次、井原 満明、村岡 浩爾、東瀬野克之、
宮田 健、田淵 誠一、中村 昌史、田口 圭介、大野 満、井上 健雄、古賀 寛、
川原 正信、辛島恵美子、稲垣 豊彦、新川 達郎、藤谷 泰裕、盛岡 通、
辻阪 吟子、市橋 綾子、井出、大西 政章、井下 祥子、佐藤 徹、田中 充、
中井 力

発行日：2003年7月25日 第3版(8月4日)
発行元：環境自治体会議 環境政策研究所(編集責任)
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3-201
TEL 03-3263-9206 FAX 03-3263-9463
E-mail: jimukyoku@colgei.org URL:
<http://www.colgei.org/>